2003年度

講義計画

桃山学院大学

講　義　計　画

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
コミュニケーション概論		通　期	4 単位	金　本　伊津子

[講義概要・学習目標]

コミュニケーションは生物の本能である。全生物がその機能を持つ。人間の行動・行為は複雑である。当然のことながら、人間を対象とするコミュニケーション研究も広範囲にわたり、学際的となる。

人類は、近年、コミュニケーション手段と機器のすさまじい発達を見た。情報は瞬時に世界を駆け巡り、国境を越え、文化を越え、個人の行動・行為に影響を与える。昨年アメリカで起きた「同時多発テロ事件」への反応はまさに現代的であり、その情報が与えた政治的、経済的、文化的影響の規模は地球の「狭さ」を実感させ、われわれに「地球村」の到来を実感させた。

氾濫する情報、うろたえる人間。主役は情報か、人間か。

[講義計画]

1. コミュニケーションとは何か
2. 情報的な世界観
3. 認識としてのコミュニケーション
4. 交流としてのコミュニケーション
5. 構造としてのコミュニケーション
6. 脳神経回路網とコミュニケーション
7. 文化とコミュニケーション

[成績評価の方法]

期末に試験／レポートを課し、出席と合わせて総合的に評価する。

[教科書]

後藤将之著『コミュニケーション論』中公新書、1999

[参考文献]

授業中に紹介する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
異文化間コミュニケーション論		秋学期集中	4 単位	遠　山　　淳

[講義概要・学習目標]

講義の内容は、異文化間コミュニケーションの諸現象およびそのメカニズムや、情報、文化、コミュニケーションの相関関係、言語とコミュニケーション、宗教とコミュニケーション、歴史とコミュニケーション、などについて講義し、文明と文化、普遍文化と個別文化との関係、異文化理解、文化変容、地球化時代の価値観・行動様式について考察する。また英語・日本語教員志望者に配慮し、英米人のコミュニケーション特性についても講義する。

情報は文化を生成し、文化は人間に対して常に規範的に係わる。異文化理解も自文化からの自文化的な「理解」である。さて諸君はどこまで自文化を越えられるだろうか。

[講義計画]

1. 異文化間コミュニケーション論とは
2. 「文化」とは：静態と動態，定義，情報代謝理論
3. 自文化中心主義と文化相対主義
4. コミュニケーションの志向性と型，動因と文化型
5. 言語と文化：エティックとイーミック
6. 非言語コミュニケーション
7. コミュニケーション能力と言語能力
8. コミュニケーションの文化型：片立型文化と両立型文化

9－10. コミュニケーションの比較：日本とアメリカ

11. 「理解」法の文化比較：「わかる」こと、言行の一致と乖離
12. 定量的方法と定性的方法、特徴と限界

[成績評価の方法]

期末に試験／レポートを課し、出席と合わせて総合的に評価する。

[教科書]

遠山共編著『異文化コミュニケーション・ハンドブック』有斐閣、1998

[参考文献]

遠山他著・石井橋本編『日本人のコミュニケーション』桐原書店、1993
古田暁編・石井・久米他著『異文化コミュニケーション』有斐閣、1987
祖父江孝男『文化人類学入門　増補改訂版』中公新書、1992

遠山他編著『異文化コミュニケーションの理論』有斐閣、2001

他は授業中に紹介する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
実務英語 （旧商業英語）	０１	春学期集中	４ 単位	三　宅　　亨

［講義概要・学習目標］

Globalization の進む中で、外国人とのコミュニケーションが益々必要になってきている。外国人との接触の機会は、かつてのように我が国への訪問者への対応だけでなく、今では同僚として、あるいは仕事の上での付き合いなど、日常的な生活の一部となりつつある。また、商用での出張、旅行などの短期訪問・滞在や転勤などによる長期海外生活をおくる日本人が珍しくない時代になってきた。

この講義では、外国人とのビジネス（社交面も含める）を円滑に進める上で最小限必要とされる英語(English for business)を取り上げる。毎回多量の英文を素早く読み取り、口頭および筆記による課題を与えるので、その覚悟で履修すること。また、受講者には積極的に TOEIC を受験してもらいたい。

［講義計画］

テーマ

1．自己 PR
2．新聞・雑誌の英語
3．説明書（マニュアル）・注意書きなどの読み方
4．海外生活に必要な英語
5．実用文の英語
6．電子メール・手紙文
7．履歴書

なお、学期期間中の世界の動向に応じて、適宜、時事的なテーマを取り上げる予定である。

［成績評価の方法］

学期末定期試験は行わない。毎回の課題と出席、講義への参加度により評価する。社会人への訓練の場でもあるから遅刻・欠席には厳しく対処する。正当な理由なく５回以上休んだ学生には以後の授業参加を認めない。

［参考文献］

授業中に指示する。

［教科書］

教材はできるだけ最新のものを取り上げたいので、教科書は使用しない。その都度、handout を配布する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
実務英語 （旧商業英語）	０２	秋学期集中	４ 単位	三　宅　　亨

［講義概要・学習目標］

この講義では、従来の貿易通信文という枠を超えて、社交通信文や電子メールを含めて実社会で必要な実用英文を書くことに重点を置く。毎回、相当量の英文を書くという課題を与えるので、十分な予習をして授業に望むこと。受講者には積極的に TOEIC を受験してもらいたい。

［講義計画］

基礎
1．ビジネスレターとは
2．社内メモ
3．電子メール
4．ビジネス通信文の本体

社交通信文
1．出張に係わる文
2．紹介・招待
3．祝賀と弔意
4．社内外への通知文
5．英文履歴書

貿易通信文
1．取引関係の創設
2．売買契約の成立
3．売買契約の履行

［成績評価の方法］

学期末定期試験は行わない。毎回の課題と出席、講義への参加度により評価する。社会人への訓練の場でもあるから遅刻・欠席には厳しく対処する。正当な理由なく５回以上休んだ学生には以後の授業参加を認めない。

［参考文献］

授業中に指示する。

［教科書］

田中武雄『初めて学ぶビジネス英語』成美堂

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
世界の英語		秋学期集中	4 単位	野　原　康　弘

[講義概要・学習目標]

最近、あらゆるものがグローバル化する中、英語も最も広く通用する国際言語の地位を獲得している。英語の国際化は、一方では英語の多様化を招き、さまざまな英語の登場をもたらすことになっている。

一昔前までは、主要な英語は「イギリス英語」と「アメリカ英語」であり、両者の違いだけが注目されていた。最近では、さまざまな英語にも深い関心が寄せられている。イングランド周辺だけでも、スコットランド英語、ウェールズ英語、アイルランド英語が存在する。世界に広げれば、カナダ英語、オーストラリア英語、ニュージーランド英語、南アフリカ英語、インド英語、さらにシンガポール英語が存在する。変わったところでは、「商取り引き」の必要性から生じた、簡略化された「ピジン英語」さえ存在する。アフリカのシエラレオーネでは、そのピジン英語を母語とする「クレオール語」まで誕生している。一つだった英語が、それぞれの国や地域で、それぞれの歴史と文化の中で、それぞれの言語と融合し、独自の発達を遂げていったわけである。

この講義では、それぞれの英語の歴史的な背景と特徴を解説していく。

[講義計画]

イギリス英語とアメリカ英語
スコットランド英語、ウェールズ英語、アイルランド英語
カナダ英語
インド英語
南アフリカ英語
オーストラリア英語とニュージーランド英語
シンガポール英語
ピジン英語とクレオール語
（講義は必ずしも上記の順序とは限らない）

[成績評価の方法]

試験で判断するが、**17回以上の出席が絶対に必要。**

[教科書]

授業の最初で指示する

[参考文献]

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
通訳法　（旧英・日語通訳法）		通　期	4 単位	村　瀬　寿　代

[講義概要・学習目標]

正直に言えば、通訳者になるのであれば、TOEFL に換算して 600 点ぐらいはないと、他人のための通訳などとても望めない。通訳をするということは、他人の言語生活を、文化を超えて共有するということである。適性の問題もある。日本語力、英語力、専門知識、教養、異文化・国際行動の常識、通暁性の高い発音、これらすべてが学習目標となるし、加えて通訳技法の習得である。このコースは英語学習のコースではなく、通訳法の入門コースである。

技術的に少人数クラスでないとクラス運営ができない。最初の授業において実力適性試験を行う。ＬＬ教室を使用。

[講義計画]

1．はじめに：「通訳法」と「通訳者」
2．アド・ホック通訳（日英）と逐次通訳（英日）
3．逐次通訳法とメモ取り訓練（英日・日英））
4．簡単な同時通訳法訓練（英日）
5．逐次通訳法を中心とする訓練
6．模擬訓練と実力試験、などを随時行う。

[成績評価の方法]

期末に行う実力試験（performance）で評価する。

[教科書]

使用しない。必要に応じてハンドアウトを配付する。学生は、メモ取り用の雑記帳と空テープを、毎回用意すること。

[参考文献]

授業中に紹介する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
ドイツ文化論 （旧ヨーロッパ文化研究－ドイツ文化）		秋学期集中	4 単位	高　田　里恵子

［講義概要・学習目標］

この講義では、１８７１年のドイツ帝国成立から、１９４５年の第三帝国（ナチス・ドイツ）の崩壊までの歴史を扱う。その際、導きの手となるのが、学校制度・教育思想の変遷であり、今回は、この時期に書かれたいくつかの学校小説と戦争小説を取りあげる。とりわけ１９００年前後のドイツ帝国、およびオーストリア・ハンガリー二重帝国の在り様が分析の中心となるだろう。

［講義計画］

1．　学校制度から見るドイツ帝国の歴史
　　ヴィルヘルム時代の社会と性
　　教養市民層と思春期の誕生
　　世紀転換期における男性性のゆらぎ
2．　学校とファシズム
　　幼年学校と男性同盟の思想
　　対等でない男性間の関係性
3．　学校と軍隊
　　第一次大戦とナチズム
　　『ドイツ戦歿学生の手紙』と『きけ　わだつみのこえ』

［成績評価の方法］ 最後に期末試験を行なう。また状況によっては、理解度を見るために、レポートか小テストを課すこともありうる。試験やレポートでは、この授業で話されたことが理解できているかどうかを問う課題を提出するので、たんなる参考書や文献の引き写しは通用しない。

［教科書］

教科書は使用しない。

［参考文献］

1．野田宣雄『ドイツ教養市民層の歴史』（講談社学術文庫）

2．ジョージ・モッセ『英霊　創られた世界大戦の記憶』（柏書房）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営学特講　（国際ビジネスと企業経営） （旧経営・商学特講（国際ビジネスと企業経営））		秋学期	2単位	中　井　壽

［講義概要・学習目標］

国際ビジネスと企業経営がテーマです。
国際ビジネスをとりまく環境は激変しています。「世界の工場」となった中国、その躍進ぶりは東アジアで突出しています。日本の生産事業シフトが加速しています。国際ビジネスにおける日本企業の経営戦略は１つの転機にあります。世界の中の日本、アジアの中の日本、国境という垣根がますます低くなるグローバル環境のなかで、熾烈な世界の競争市場で生き残るためには「日本を世界の１地域としてとらえる経営」、海外展開する海外子会社は「国境を感じさせない経営」へと地球的視野のマネジメントがいま求められています。
このような視点に立って、国際ビジネスの基本を学び、多国籍企業のグローバル経営の実態を主軸（事例研修を含め）に講義をすすめたい。

［講義計画］

（A）国際ビジネスとは何か
（B）国際ビジネス発展の系譜
（C）国際ビジネスと経営 －組織と管理－
（D）国際ビジネスの基本戦略
　　1．求心力としての経営理念
　　2．企業価値としてのブランド戦略
（E）欧米多国籍企業の海外事業展開
　　日本多国籍企業の海外事業展開
（F）世界の市場における国際ビジネスの実践事例
　　1．アセアン、2．中国、3．ＥＵ市場

［成績評価の方法］

出席と試験結果の総合評価

［教科書］

授業時資料を配付

［参考文献］

日頃から国際関係（政治・経済）、国際ビジネスなどの関連記事に関心をもつこと。

《インテグレーション科目 》

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　チ　ー　フ
経営学特講（日本企業のグローバル戦略） （旧経営・商学特講（日本企業のグローバル戦略）		秋学期	2単位	鈴木　幾多郎

［講義概要・学習目標］

これからの企業経営にとって，“国際化”は最重要課題である。
では，経営の国際化とは一体何なのか。どのような視点をもって，どのように行動すれば国際的なのか。このような問題を解いていくことがこの講義の目標である。

テーマは「Global Enterprise of Japan」（予定）である。
具体的には，グローバルビジネスの実態，グローバル企業の必要条件，世界の文化とビジネスとの関係，などについて，商社の企業人の方々に講義してもらう。

そして，この講義の特徴はすべて英語でおこなわれることである。
講義を英語で聴くことによって，国際感覚と語学力を身につけるようにする。

［講義計画］

以下に，第１回から１２回までの講義のテーマ（予定）を示す。

1. Doing Business across Cultures
2. The Role and Functions of “Sogo-Shosha”
3. The Importance of Japan on International Trade
4. Better Understanding of The Middle East and Islam
5. Risk Management
6. Textile Business in HongKong
7. Foreign Investment in China
8. Textile Joint Venture Business in China
9. The Transaction of Export by Small Manufacturers
10. FDI Will Activate Osaka Economy
11. What Makes Up a Successful Businessperson
12. The Changing Role of Trading House

［成績評価の方法］

出席状況，レポート，テストなど総合的に評価する。

［教科書］

特に指定しない。

［参考文献］

必要な場合，追って指示する。

《インテグレーション科目》

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　チ　ー　フ
経営学特講(企業情報の開示と税制；日本) （旧会計学特講（企業情報の開示と税制；日本））		秋学期	2単位	パク　テヨン 朴　大栄

［講義概要・学習目標］

国際化への対応は、たんに英語を話し、外国の制度・文化を勉強するだけでは十分とは言えない。その前提として、諸君の生活基盤がある日本の制度・文化の理解こそが必要である。渡日者、あるいは日本に関心のある外国人は日本の制度･文化に関心をもっている。われわれは、受信のみならず、発信もしなければならない。彼らの質問に英語で答えることができるだろうか、これこそ見逃せない課題である。ビジネス活動の国際化により、日本の会計、商法、税制などについての英語による発信もますます重要性を高めている。

本講義は、国際的に活躍しようとする学生諸君のために企画された。流暢な英語、きれいな発音に偏り過ぎることは、勉学の本質を見失ってしまう。本講義を担当するのは、現在あるいは過去において海外赴任の経験のある、あるいは、海外企業の業務にかかわってこられた公認会計士の皆さんである。国際的に活躍されている専門家の皆さんがどのように英語で日本の会計システムを解説されるか。ぜひとも、五感で触れて欲しい。

［講義計画］

1 : Accounting and Auditing Practices in Japan Introduction
2 : Accounting Practices in Japan Japanese GAAP (1)
3 : Accounting Practices in Japan Japanese GAAP (2)
4 : Accounting Practices in Japan Japanese GAAP (3)
5 : Reporting under the Japanese Commercial Code
6 : Reporting under the Securities and Exchange Law in Japan
7 : Semi-annual Financial Statements
8 : Consolidated Financial Statements
9 : History of Auditing Practice in Japan
10 : Audit Standards and Practices in Japan
11 : Tax system in Japan
12 : Corporate Income Taxation in Japan

［成績評価の方法］

レポートと出席状況を勘案して評価する。

［教科書］

とくに指定しない。

［参考文献］

講義中に適宜指示する。

《インテグレーション科目》

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担当チーフ
経営学特講　（ビジネスと文化） （旧経営・商学特講（ビジネスと文化）） [講義概要・学習目標] With the coming of the new century, the world is changing more rapidly than ever. Steadily advancing IT revolution is changing our society, industry and lifestyle. In addition, ongoing globalization requires communication and cooperation across cultures among other things. In this class a wide range of interesting topics will be taken up for those who aspire to be *citizens of the world*. The class will be taught by different faculty members each week, and conducted *entirely in English*. Students are encouraged to participate in lively discussions. [成績評価の方法] Strict attendance is required. In place of the final examination, the students are asked to submit papers on several topics presented during the course. [教科書] No textbooks are used in this course. Instead, handouts will be provided in class.		春学期	2単位	三　宅　　亨

[講義計画]

Tentative List of Topics to Be Presented

1. Globalization and English
2. Japanese Agriculture
3. Deregulation of Economy & Cooporate Restructuring in Japan
4. Japanese Retailing Industry
5. Steel Industry in Japan and the World
6. Insurance Business in Japan
7. Japanese Culture and Communication
8. Different Cultures

The final list will be distributed at the beginning of the spring semester.

[参考文献]

To be announced in class.

《インテグレーション科目》

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担当チーフ
経営学特講（英文簿記会計） （旧会計学特講（英文簿記会計）） [講義概要・学習目標] ビジネス活動の国際化により、英文による簿記・会計の理解が不可欠となっている。英文簿記会計といっても、単に財務諸表の日本語表記を英語表記に置き換えるだけではなく、国際的な会計基準と日本の会計基準との差異についての理解も必要となる。 国際的な会計スキルを判定するための検定試験が東京商工会議所を中心として実施されており、2002年12月の第4回目の試験には2,000名弱が受験した。受験者数は、学生のみならず、ビジネス関係者の間でも、今後、急増していくものと予想される。 本講義は、このBATIC（国際会計検定）試験に焦点を合わせ、受講生諸君の国際ビジネス能力の向上に寄与することを目的として開講されることとなった。講義を担当するのは、国際業務に関わってきた公認会計士の皆さんである。毎時間、講義50分、演習20分、解説10分、質疑応答10分を標準として進める予定である。簿記についてのある程度の事前知識が必要であるので、商業簿記（旧カリ：簿記Ⅰ）の単位修得ないし日商簿記検定試験３級合格を履修条件としている。国際ビジネスに関心のある学生は、本講義とあいまって、経営学特講（企業情報開示と税制；日本）（Corporate Disclosures and Taxation in Japan）を受講することを勧める。 [成績評価の方法] 学期末テストの成績と出席状況を勘案して評価する。 [教科書] BATIC公式テキスト『Subject１』、『Subject２』　東京商工会議所		春学期	2単位	清水信匡

[講義計画]

1：Basic Concept of Bookkeeping, Business Transactions
2：The Accounting Cycle and Controlling System, Accounting Structure, Recording Financial Transaction
3：Adjusting and Closing Entries, Preparation of the Worksheet, Financial Statements
4：Financial Accounting and Reporting , Financial Statements
5：Cash, Account Receivable
6：Inventories, Property, Plant and Equipment
7：Intangible Assets, Investments
8：Liabilities, Stockholder's Equity
9：Translation of Foreign Currency Statements, Statement of Cash Flows
10：Business Combinations
11：Interim Financial reporting and Segment Information, Accounting Change and Correction of Errors, Time Value of Money

[参考文献]

講義中に適宜指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営学特講（パソコンによる経理）		秋学期	2単位	安　井　一　浩

[講義概要・学習目標]

経理用ソフトに加え表計算ソフト、データベースソフト等を使用したパソコンによる経理実務を学習します。また背景にある簿記、財務諸表の理論も学習します。日常的な経理実務に加え決算実務ができるようになることを目標とします。

[講義計画]

経理用パソコンソフトによる日常業務に必要な知識を説明したあと、表計算ソフト、データベースソフトの活用方法を説明します。続いて各種税金の処理及び決算特有の処理、決算書の作成に関する事項を説明します。

また講義の中で適宜、実際のパソコンに触れて学習及び演習をして頂きます。

[成績評価の方法]

出席回数、講義中の演習及び考査を総合的に考慮して評価します。

[教科書]

最初の講義で指示します。

[参考文献]

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
外国書講読	１１	通　期	4 単位	何（カ）　為（イ）

［講義概要・学習目標］

社会主義市場経済移行中の中国経済・社会環境を反映し、現代中国事情への理解に有益な初歩的な中国語文献の購読により、中国語の読解力を高めながら、中国経済・社会に対する理解を深めるという一石二鳥の効果を図る.

［講義計画］

通年講義で３０ページを読み、1学期１５ページ程度、１講義あたり１－２ページ程度.

［成績評価の方法］

平常点

［教科書］

使用しない。ただし、講義の際に随時プリントを配布する.

［参考文献］

必要に応じて参考文献を指示する.

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
外国書講読	１２	春学期集中	4 単位	小早川　義　則

［講義概要・学習目標］

わが国の刑事手続に最も大きな影響を与えたアメリカ合衆国最高裁判例を精読する。初心者にとってはやや難解であろうが、著名な原典に直接触れることによって、大学生としての知的刺激の高まりが期待されるとともに、法の世界への関心が増すことと思われる。

［講義計画］

当初の数回は適当な日本語文献の紹介とともに、テキストの内容およびわが国への影響などについて解説する。その後、参考文献に目を通しながらテキストを精読する。それにあわせてアメリカ映画――例えば“評決のとき”――などを鑑賞しつつ、その影響力について考えてみたい。

［成績評価の方法］

報告内容を含めた平常点によるが、出席状況を重視する。

［教科書］

Miranda v. Arizona, 384 U.S.436 (1966)
（コピーして初回時に配付する。）

［参考文献］

小早川義則『ミランダと被疑者取調べ』（成文堂、１９９５年）、
その他適宜指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
外国書講読	13	春学期集中	4 単位	中　野　瑞　彦

［講義概要・学習目標］

【講義概要】

変動相場制移行後の国際金融市場における金融リスクとその管理体制について学習するとともに、現在の金融市場が抱える問題点について検証する。

【学習目標】
今日の金融取引が抱えるリスクの学習を通じて、リスクへの対応を各自が十分に認識できるようになることを目標とする。

［講義計画］

各週２回の講義のうち、以下の通り割り振る。
１回…教科書の読修、２週間で１章分に読了を目標とする
１回…教科書の内容につき、参考文献などを用いて確認する

【講義内容】
1．変動相場制への移行が意味するもの
2．資本市場の自由化の影響
3．為替市場と資本取引の管理
4．先進国における新金融秩序
5．途上国における新金融秩序
6．国際的レベルでの金融管理体制

［成績評価の方法］

試験またはレポート提出による

［教科書］

John Eatwell and Lance Taylor
"Global Finance at Risk" (The New Press)

［参考文献］

Robert J.Barro "Determinants of Economic Growth" (The MIT Press)
OECD Economic Outlook
BIS Annual Report

外書 02～

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
外国書講読	14	通　期	4単位	中村　征之

［講義概要・学習目標］

国も地方自治体も今、厳しい財政事情にあえいでいる。しかし、地方分権の流れの中で、各地からは工夫を凝らし、熱のこもった自治体の政策努力も伝えられている。自治体は地域の住民に最も身近な行政の担い手である。それは「中央」政府に対比して、「地方」政府とも呼べる憲法上の位置を与えられている。このような地域を基盤とした「自治」の論理はどこから生まれたのか。また、どのようにして近代的政治システムの中で欠くこのできない存在にまでなりえたのか。その歴史、理念の展開をたどるテキストを通して自治の思想、構造を探る。

［講義計画］

英文解読のスピードを求めるよりも、内容理解を深めることに主眼を置いて、教科書を精読する。

［成績評価の方法］

・２回の定期テストによる。

［教科書］
・Alan Norton, International Handbook of Local and Regional Government, Edward Elgar Publishing Limited, 1997.

必要な所のコピーを渡すので、購入の必要なし。

［参考文献］

・「近代の政治思想」福田歓一（岩波新書）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
外国書講読	15	通　期	4 単位	蕗　谷　硯　児

[講義概要・学習目標]

主に英字新聞掲載の時事報道の読解によって最近の世界および日本の情勢についての認識を深めるとともに，英字新聞・雑誌の読解力の向上を図ることを目標とする。

テキスト以外にも随時外国の雑誌や新聞記事をコピー配布して速読力の養成を図る。

[講義計画]

テキストの順序に従い2002年に発生した時事ニュース，日朝拉致事件と金正日明，瀋陽領事館への亡命事件，ワールドカップブラジル優勝，ユーロ流通開始，スイスの国連加盟，ミャンマーのアウン・サン・スーチー解放，東ティモールの独立，米ワールドコム倒産，アフリカ連合発足，日ソ航空機事故，NATO・ロシア理事会，自由貿易協定（FTA），京都議定書批准，小沢ウィーンフィル指揮，世界最古人類化石発見等の英文記事を読解し，各節毎の練習問題に取り組んでもらう。

[成績評価の方法]

出席状況，課題に対する取り組み方，小テストの成績等を総合的に評価して判定する。

[教科書]

Harno Kizuka, Newsworthy 2003.

Macmillan Languagehouse（¥1600＋税）

[参考文献]

外書 02~

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
外国書講読	16	通期	4単位	松宮　広和

[講義概要・学習目標]

英語文献の講読を通じて、インターネットに関連する現代の状況の理解を深めることを１年間の目標とします。現代の社会においては、非常に多くの非常に有用な情報がインターネット上に公開されています。英語力の修得は、これらの情報の入手と活用を可能とします。この授業では、単に英語力の養成のみならず、前記の分野において、特に経済学を専攻する方々にとって有用であると考えられる情報とそれを入手する手段についても一定の知識が得られることを目標にします。教材については、インターネット上から入手することが可能な英文資料及び英字新聞記事等で、時事的な内容について記されたものを取り扱うことを予定しています。講義は可能な限り平易であることを目指し、また、講義の性格上、経済関係法についての解説も加えます。法律関連科目を登録したことがない方々の参加も歓迎します。その様なことも考慮して、必要に応じて、法律分野における一般的な知識に関する解説も加えます。

[講義計画]

授業は、事前に担当者を決定して、テキストの担当箇所の翻訳を行ってもらいます。適宜それに対する解説をこちらで加えます。全体として、単に英語力の養成のみならず、インターネットに関連する現代の状況の理解を深めることを1年間の目標とします。

[成績評価の方法]

出席状況、担当箇所の発表内容及び質疑応答の内容等から判断する平常点に基づいて、評価を行います。

[教科書]

テキストは、随時プリントの形態で配布します。

[参考文献]

日本語で記された関連分野の基本書として、以下の様なものを挙げておきます。

村井純『インターネット』(岩波書店　岩波新書　新赤版416　1995年)。
村井純『インターネットII：次世代への扉』
(岩波書店　岩波新書　新赤版571　1998年)。
根岸哲『経済法』(放送大学教育振興会 2000年)。
小野昌延『知的財産法入門-特許・商標・著作権の常識-(第3版)』
(有斐閣 1998年)。
その他、必要に応じて適宜指示します。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
外国書講読	31	秋学期集中	4単位	出原博明

［講義概要・学習目標］
内容表現ともにすぐれた多様な英文を読む。
内容は、主として、日本と西洋の比較文化研究と人間研究（人間洞察と人生の機微にふれたもの）とする。
さまざまな文献から目的に適ったpassagesを抜粋する。
目標は、原書でなければ体験できない微妙な言葉の滋味を理解して楽しむ力をつけること。併せて、上記のような内容を、人生をよりよく生きるうえでの滋養として吸収して欲しい。
（授業中の、ケイタイによるメール、私語、内職、は厳禁します。）

［講義計画］
一つのテキストに固定するのではなくて、多様な文献から目的に合わせて抜粋したpassagesを、綿密に読みます。
この自由を活かして、状況をみながら臨機応変に対処していきます。但し、受講生は相当レベルの高い英語力を要求されます。
（英語力の無い学生は、この講義は取らないように。）

［成績評価の方法］
普段の演習中の評価とテスト。

［教科書］プリント、又は教室で指示。

［参考文献］
Ruth Benedict、*The Chrysanthemum and the Sword*
Okakura Tenshin、*The Book of Tea*
R. H. Blyth、*The Genius of HAIKU*

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
外国書講読	53	通期	4単位	隅田　孝

［講義概要・学習目標］
マーケティングをいかに効率よく戦略的に計画・実践するかということはほとんど全ての企業にとって非常に重要な課題である。また、企業はマーケティングを計画・実践するには生産、製品、販売、顧客、市場などさまざまな環境と密接に関係をもっていることを認識していなければならない。
マーケティングの核となる概念をしっかりと理解した上で、以下のようなことを学んでいく。
企業が顧客のニーズ(needs)やウォンツ(wants)を認識し、それらに対して4P (Place, Price, Product, Promotion) を柱としたマーケティング・ミックスをどのように構築するのか。企業が自社製品を市場に送り出す際に採られる市場細分化がどのように行われるのか。事業ポートフォリオ、製品差別化、ニッチ戦略などマーケティングに関する事項について学習する。
経営学およびマーケティングに関する数多くの専門用語を英文で学んでいくことになるため、受講生各人は予習が不可欠である。

［講義計画］
1．マーケティングの概念
2．生産、製品、販売、市場の概念
3．顧客価値と顧客満足について
4．企業のマーケティング環境
5．マーケティング・ミックス (4P : Place, Price, Product, Promotion)
6．製品差別化
7．市場細分化
8．消費者行動1
9．消費者行動2

以上が概ねの予定であるが、これら以外にも必要に応じて指示をする。

［成績評価の方法］
出席状況、授業態度、期末試験により総合的に評価する。

［教科書］
Kotler, Philip(1994), *Marketing Management,* 8th ed., Prentice Hall. より抜粋しプリントを配布する。

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
英語学概論	０１	春学期集中	４ 単位	清　水　真　一

［講義概要・学習目標］

英語も人間言語の一つである。英語という個別言語は言うまでもなくそれ固有の特性をもつ。と同時に、英語は人間言語としての特性をも反映した対象物であるはずである。英語学をことばの科学として捉えようとするなら、英語に固有の特性を研究するだけではなく、言語間にみられる共通性・一般性に着眼し、人間のことばの基底に横たわる知識、即ち、言語能力を究明するという観点から英語という言語を捉えてみることが必要となろう。この意味でも、講義の中では、英語以外の言語を考察の対象に加えることがある。

概論という性格上、事細かな技術的議論は避けることにし、基本的な概念の理解と、言語学の思考法のようなものの習熟にできるだけ時間を割いてみたい。習熟度をはかるために小テストを課することがある。

［講義計画］

1. 英語学と言語学
2. 音声学
3. 音韻論
4. 形態論
5. 統語論
6. 意味論
7. 語用論

［成績評価の方法］

原則として出席、小テスト、期末試験に基づいて総合評価をおこなう。

［教科書］

中島平三著　『ファンダメンタル英語学』(ひつじ書房)

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
英語学概論	０２	秋学期集中	４単位	ケビン　グレッグ Kevin R. Gregg

［講義概要・学習目標］

言語学とは、ヒトがもつ言語能力（知識）を説明しようとする自然科学で、「英語学」はその科学を特定の言語に当てはめる。本授業では、言語学の基礎概念や現象を紹介し、把握してもらおうとする。

英語学概論だから当然、英語を中心とするが、日本語その他の言語についても論じるし、場合によってその言語も宿題や試験の対象とする。本授業の目的は、英語の特徴を一つ一つ記述したりすることでは決してなく、むしろ人間言語の特徴を、（特に）英語を例として、紹介することである。

［講義計画］

1）科学としての言語学
2）（英語の）文の構造：統語論
3）（英語の）語の構造：形態論
4）（英語の）音韻体系：音声学と音韻論
5）文、命題、発話：意味論と語用論

［成績評価の方法］

小テスト（クイズ）を頻繁に行なう。その小テストの大半を受けない場合、定期試験を受けても無駄になる。

［教科書］

井上和子ら、「生成言語学入門」大履館

［参考文献］

プリントを配る

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
英米文学概論	０１	春学期集中	４単位	藤森かよ子

［講義概要・学習目標］

目的（１）：文学作品の機能は「楽しませ」て「教える」こと。ただのエンターテインメントでは足りない。読者の認識を広げるものでなくてはならない。本講義では、英米文学、主にアメリカ文学を中心にして、正典（読者は少ないがアカデミズムで立派と認められたもの）から大衆小説（読者は多いが、低級な娯楽読み物と判定されるもの）まで、様々な文学作品を取り上げ、どう楽しませ、何を教えているのか、その手口のあれこれを考察する。具体的には、文学作品によく扱われる１０のテーマ（青春、運命、恋愛、成功の夢、家族、姦通、老い、大義、個人と社会、疎外）を選び、そのテーマが、個別の作品の中でどう調理されているかを見る。あなたなら、どう表現する？

目的（２）：上記の作業をしながら、文学の様々なジャンルや、基本的な文学専門用語なども学ぶ。あなたは、悲劇とメロドラマ（災難劇）の区別がつくか？

［講義計画］

第１回目　：文学って何？
第２＆３回　：青春：『ライ麦畑でつかまえて』『不思議な少年』
第４＆５回　：運命：『白鯨』『フランケンシュタイン』
第６＆７回　：恋愛：『風とともに去りぬ』『モーリス』
第８＆９回　：成功の夢：『偉大なるギャッツビー』、『カインとアベル三部作』
第10＆11回　：家族：『ガラスの動物園』『ろくでなしボーン』
第12＆13回　：姦通：『緋文字』、『情事の終わり』
第14＆15回　：老い：『クリスマスの贈り物』『老人と海』
第16＆17回　：大義：『武器よさらば』『ソフィーの選択』
第18＆19回　：個人と社会：『肩をすくめたアトラス』『１９８４』
第20＆21回　：疎外：『冷血』『八月の光』
第22～最終回：補足・まとめ

備考：講義のとき取り上げる作品が変更される可能性は大きい。

［成績評価の方法］
（１）毎回講義終了時にコメントペーパー提出。その内容と出席率。
（２）レポートを二回課す。提出しない場合は不可。

［教科書］
毎回講義時にハンドアウトを配布。適宜、他の資料も配布する。

［参考文献］
毎回講義時に配布するハンドアウトに文献リストが記されているので、それを参照のこと。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
英米文学概論	０２	秋学期集中	４単位	岡田章子

［講義概要・学習目標］
この講義は文学とは何かを考えるものである。英文学の中で長い歴史をもち、現代にまで続いているバラッドを読みながら、文学の楽しさを身につけたい。バラッドとは民謡で、語り手が語り、歌い、それを聴衆が聞き、踊るという伝達様式の上に成り立っている。いわば、詩と語りと音楽と芝居が同居したものである。その題材は妖精、変身、冒険、恋愛などが多く、明確な行動を語るもので、人物の複雑な心理を分析したりするものではない。その素朴な語りの中に人間の喜びや悲しみや暖かさを織り込んでいる。その魅力は素朴な感動にある。
このテキストは作者不詳の古いものから、20世紀に至るまでの作品が集められている。バラッドに特有の古い単語もあるが、巻末にはglossaryも付され、詳細な注釈もついているので、楽しく読み進むことができる。比較的易しいものから読んで、バラッドの楽しさを味わい、それによって文学とは何か、学生自身で考えることを期待する。毎時間きちんと出席し、学んだ詩は繰り返し音読してほしい。

［講義計画］
1. 英詩の流れ
2. バラッドとは
3. バラッド鑑賞
4. まとめ—文学とは何か

［成績評価の方法］
1. 平常点
2. 定期テスト

［教科書］
薮下卓郎・山中光義編　Traditional and Literary Balla
大阪教育図書
1. 生協にて一括購入し販売する。

［参考文献］
原 一郎 著 『バラッド研究序説』

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
英語表現文法 （旧英語の構造）		春学期集中	4 単位	三　宅　　亨

［講義概要・学習目標］

言葉を用いて自分の表現したい内容（意味）を聞き手（読み手）に伝えるには、まず語彙を身につける必要がある。しかし、いくら語彙が増えても使い方を知らなければ、日常会話の決まり文句程度の片言の域を出ない。いくつかの語を適切につなぎ正確に意味の伝わる文を作りだす能力（文法知識）が欠かせない。文は単に語が無秩序に並んだものではなく、一定のルールに従って組み立てられたものである。その構造を理解しなければ、文を読んだり、書いたり、聴いたり、話したりすることはできない。この講義では英語でのコミュニケーションに求められる文構造を扱う統語論(syntax)を中心に、高校までに学習した英文法知識を現実に使われている英語と比べて整理し直し、英語が使えるようにするという実用面と同時に伝統文法から最新の言語理論面への橋渡しを試みる。これは、英語習得の基礎になるので１年次に履修することが望ましい。

［講義計画］

1．文
2．動詞と文型
3．時制と相
4．態
5．話法
6．助動詞
7．法と条件文
8．否定
9．形容詞
10．形容詞の型
11．副詞類
12．情報構造
13．文の構成要素の移動

［成績評価の方法］

遅刻や欠席の多い学生には単位を与えない。定期試験はもちろんのこと、日常の学習参加への熱意と小テストやレポートなどに基づき、総合的に評価する。

［参考文献］

その都度指示する。

［教科書］

毎回 handouts を配布する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
基礎演習	０１～１２	通　期	４単位	クラス・担当者については、目次で確認してください。

［演習概要・学習目標］

文学部では国際社会で広く活躍しうる人材を育成するために、「実践的英語力」「国際的視野」「現代社会への対応」という３つの方針を掲げている。この演習の目的は、こうした教育理念を具現化するために編成されている文学部のカリキュラムを効果的に履修するための素養と技能を獲得することである。

「何をどう学ぶか」の指導助言を行う。とくに文学部でどのような勉学が可能であるか、また望ましいかの履修指導を行う。あわせて学生生活一般にかかわるガイダンスを行う。受講生が２年次以降どのコースを専攻し、またどちらの学科を選択するかを判断するのに役立つことであろう。

具体的な授業内容としては、とくに少人数ゼミナールという利点を生かして、研究発表のしかたやレポートの書き方に習熟することが重視される。これはすべての科目に有益であるが、とくに３年次からの専門演習をスムーズに始めることができるであろう。

［演習計画］

①履修指導。履修要項の見方やカリキュラムの概要を知る。
②図書館の利用方法。
③情報センターの利用方法。
④講義の受け方、ノートの取り方。
⑤読書指導（内容の把握と評価）。
⑥文章指導。
⑦レポートの書き方（問題の発見・設定、資料・情報の検索、情報の解読と統合、レポート作成）。
⑧プレゼンテーションの方法。自己紹介から研究発表まで。

［成績評価の方法］

出席（毎回出席が原則）、積極的な授業参加、課題の提出などにより総合的に評価する。

［参考文献］

その都度指示する。

［教科書］

なし。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
文化人類学		秋学期集中	4単位	小池　誠

［講義概要・学習目標］

文化人類学は自分たちとは異なる文化を調査・研究し、この世界に住む様々な人々の文化的多様性を明らかにしてきた。この授業では、文化人類学独自のアプローチと方法論を通して、異文化にたいする理解を深めることを目的とする。

様々な民族の多様性だけでなく、多様性を通してあらわれてくる人類としての普遍性もみていきたい。私たちの常識とはまったく異なる習慣や社会のあり方をたんに珍しいものとか、遅れたものと見下すのではなく、それぞれに独自の価値を見いだす、文化人類学の視点を身につけることを目標とする。

地域に根ざした日常文化を紹介するだけでなく、グローバリゼーションが進展している現代世界で、地域の文化がどのように変化しているか考えていきたい。また、今日大きな問題となっている多文化社会と民族問題についても、より身近な問題として受けとめてもらいたい。

受講者の関心と理解を深めるために、できる限りビデオなどの視聴覚教材を講義のなかに取り入れる予定である。

［講義計画］

1　文化人類学とは何か？

2　文化とグローバリゼーション：文化とは何か、グローバリゼーションによって地域の文化はどう変わっていくのか？

3　家族と結婚の多様性：家族とは、結婚とは何か？

4　政治と経済のしくみ：どうして人は力をもつのか、なぜ人はものを贈るのか？

5　国家と民族：民族とは何か、なぜ民族は対立するのか？

6　宗教と儀礼：現代世界で人は何を信じ、何を求めるのか？

［成績評価の方法］

平常の出席と試験の成績をもとにして評価する。また、必要に応じて提出を求める小レポートの内容も加味して成績をつける。

［教科書］

なし。

［参考文献］

講義のなかで必要に応じて紹介する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
地域文化概論		秋学期集中	4 単位	今　澤　浩　二

［講義概要・学習目標］

世界にはさまざまな地域があり，それぞれの地域にはその地域特有の「地域文化」が存在する。そうした「地域文化」はどうとらえるべきなのか，どのように見ていくべきなのか。

本講ではこうした問題について，トルコという地域を題材に取り上げて考察し，ひとつの地域の文化を見る上での視点を考えたい。

［講義計画］

1．自然―トルコの自然と地理―

2．宗教―イスラーム―

3．歴史―トルコ民族史―

4．現代社会の諸相―住民・宗教観・食文化・スポーツ―

［成績評価の方法］

学期末試験と授業中の小テストにより，総合的に評価する。

［教科書］

なし。

［参考文献］

講義中に随時，紹介する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
比較文化概論	01 02	春学期集中 秋学期集中	4単位 4単位	小　林　信　彦

[講義概要・学習目標]

日本文化の特徴は何か。他の文化と違う点は何か。この問題に答えるためには他の文化と比べてみなければならない。そのための作業として，日本人が異文化をどのように受け取ったかを調べればよい。幸いにして日本には異文化圏から来た書物が数多く伝わっているが，この授業では特に仏教のものを取り上げる。

仏教文献を読んだ古代日本人の発言に着目し，これをインド文献の記述と比較することによって，日本文化とインド文化の決定的な違いを指摘する。

[講義計画]

まず基礎知識を確実に身につけさせるために，仏教について最も根本的な点を分かり易く説明する。次に古代の日本説話の中から話を一つ選んで，日本人が仏教をどう扱っているかを詳しく開設する。その上で，インド人と日本人の間で考え方の違いを理解させる。

一度にあまり多くの事象を取り上げると不要な混乱が生じる恐れがあるので，最初は一点を深く掘り下げて，それに関連する多くの文化事象に触れ，「狭い問題を取り上げて広い知識を与える」という方法で授業の成果を上げたい。

[成績評価の方法]

① 授業中の質問と発言を特に評価する。
② 課題ごとに小試験を行い，折に触れて授業内容の要約を提出させる。
③ 学期の中間と学期末に試験を行う。

[教科書]

教室で扱う資料はそのつど複写で配布する。

[参考文献]

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
言語学概論		通　期	4 単位	大　石　正　晴

[講義概要・学習目標]

言語の使用は人間生活の中で最も基本的かつ欠くことの出来ない営みである。人間どうしのコミュニケーションの道具であるだけではなく，存在の認識，理解，記録，伝達等について他の動物とは全く異なった機能を果たすものである。言語なしに人間の生活は成り立ち得ないことは明らかである。

ところが，これほど重要な言語の本質が十分理解されずに、あまりにも自明のこととして使用されているため，言語がもつ究極的な曖昧さ・不便さに気がつかず，この点から生じる認識やコミュニケーションの不確かさ，不充分さの問題を数多く残したまま生活が行われている。

本講義は，言語の本質的な姿と問題点、及び人間生活に果たす役割を根底から見直し，欠点を浮き彫りにしながら，より良い言語生活を行う道を探ろうとするものである。

[講義計画]

次の諸問題について考察する。

1．言語とはどういうものか
2．言語研究の流れ
3．言語の内部構造
　—音声・語・文・意味等
4．言語使用の問題
　—人間がお互いに伝達し合う時に守る一般原則・手段等
5．言語をとりまく外側の諸要素
　—言語と社会・言語と心・言語の変化等

[成績評価の方法]

試験と講義への出席度による

[教科書]

「入門言語学」　ジーン・エイチソン　著
田中春美／田中幸子／若月　剛　訳
金星堂

[参考文献]

講義で適宜紹介する

文学03

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
日本語学概論		春学期集中	4単位	有川康二

［講義概要・学習目標］

日本語学習者の質問。「は」に濁点がつくと、「ば」。でも,何故「な」に濁点をつけて「な゛」にしても発音できないの？「大型」は「おおがた」。でも、何故「大風」は「おおがぜ」と言わないの？「病気の人」とは言うけど、何故「元気の人」とは言わないの？「猫が金魚が食べた」は変だけど、この時、頭の中の中ではどんなことが起こってるの？

日本語話者なら誰でも日本語を自由に「使える」が、その仕組みを体系的に「説明」できない。（誰でも脳味噌は使えるが、そのメカニズムは説明できない。）「経験科学」の手法を用いてヒト脳言語野のメカニズムを探る。科学は、誰もが当たり前過ぎて考えるのも馬鹿らしいと思う事柄に驚嘆することから始まる。その意味では、「自然言語（ことばをしゃべる）」は「重力（ものが落ちる）」や「光（明るい・暗い）」とともに科学の格好の対象である。

日本語を三つの視点から概論する。（1）生物言語学の視点＝自然が創り上げた脳の創発的自己組織化の過程で出現した自然言語の一般的性質とは何か？（2）日本語教育学の視点＝日本語を外国語として学ぶ人々にとって日本語の客観的な説明とは何か？（3）哲学的視点＝私とは何者なのか？私はこの宇宙の中で何をしながら死を待っているのか？（こんなことは大学とお寺でしか言われないので我慢してください。）

［講義計画］

（1）音特徴情報処理のインターフェースにおける原理とメカニズム
（簡単に言えば「音」の問題）
（2）文全体の意味特徴情報処理のインターフェースに至る過程から音特徴が剥ぎ取られた後、音特徴情報処理インターフェースに至る早い段階における原理とメカニズム
（簡単に言えば「単語」の問題）
（3）文全体の意味特徴情報処理のインターフェースに至るまでの構造形成の過程における原理とメカニズム
（簡単に言えば「文」の問題）

［成績評価の方法］

出席・筆記試験

［教科書］

上山あゆみ『はじめての人の言語学－ことばの世界へ』（くろしお出版）

［参考文献］

井上和子・原田かづ子・阿部泰明『生成言語学入門』大修館書店

文学 03

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
音声学・音韻論 （旧　英語音声学）		秋学期集中	4 単位	南　條　健　助

［講義概要・学習目標］

この授業では、「音韻論は音声学の一部である」という英国学派音声学（British School of Phonetics）の伝統に従い、主として英語音声学を概説することとし、その合間に音韻論の研究方法と最新の研究成果に関する基本的な知識を与える。

英語音声学では、英国学派の実践音声学（practical phonetics）に基づき、標準的なアメリカ英語の音声を、主として調音（articulation）の面から科学的に研究する。実践音声学とは、自分の耳で聞いた聴覚印象や、自分で発音した際の音声器官（vocal organs）の状態および筋肉運動を知覚するといった自己観察に基づいて、音声を記述・分析する音声学の研究方法の一つである。したがって、この授業では、まず第一に、英語の音声を正確に聞き取るとともに、聞き取った音声を、個々の母音・子音ばかりでなく、そのつながり方や強勢・リズム・音調にいたるまで、忠実に再現し、発音した際に、自分の舌や唇あるいは喉などが、どのような動きをしているかを感じ取ることができる能力を身に付けてもらう。授業では、そのための音声学訓練（phonetic training）に、かなりの時間を割くことになる。また、そのような訓練と並行して、毎週少しずつ音声の理論と英語の音声事実を勉強していく。

［講義計画］

開講時に講義計画書を配布する。

［成績評価の方法］

開講時に説明する。

［参考文献］

講義中に紹介する。

［教科書］

開講時に指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
意味論・語用論 （旧　意味論（意味論の基礎概念）（２）） （旧　語用論（語用論の基礎概念）（２））		春学期集中	4 単位	林　宅　男

［講義概要・学習目標］

ここでは、ことばの意味の諸相について、前半では、語や文の概念に関する「意味論」を、後半では、発話の場面や文脈上の意味に関する「語用論」を扱う。

意味論では、近年の認知科学の発展と平行して最近注目を浴びている「認知主義的意味論」を扱う。ここでは、言語が脳の精神作用一般の働きと密接に関係し、その意味は主観的な自己の経験や知識によって影響されるということを示した研究を紹介する。語用論では、我々はコミュニケーションにおいて、ことばを使ってどように意志疎通を図るかについて、文法事象の文脈的説明や発話意図の表現解釈のメカニズムの他、言語表現や解釈の過程における認知的、社会的、文化的現象を分析した最近の研究を幅広く紹介する。

［講義計画］

(1) 意味論の分野と立場の紹介
(2) 認知意味論とそのアプローチの特徴
(3) 範疇とプロトタイプ
(4) 認知モデルの種類
(5) 範疇化モデル
(6) イメージスキーマ
(7) 認知文法
(8) メタファー理論
(9) メンタルスペース理論
(10) 構文研究
(11)まとめ
(12) 語用論の領域について
(13) 言語使用と文脈
(14) 文法研究と語用論
(15) 情報構造
(16) 直示性
(17) 発話行為
(18) 発話解釈の 原理
(19) 認知的語用論
(20) 対人コミュミケーションにおける語用論
(21) 社会／文化研究における語用論
(22)まとめ

［成績評価の方法］

出席、クイズ、課題、試験を総合的に評価する。

［参考文献］

1. 河上誓作（編著）「認知言語学の基礎」研究社、１９９６年
2. ジェニー　トーマス（著）田中典子他（訳）「語用論入門」 研究社、１９９８年
(Jenny Thomas, 1995 "Meaning in Interaction: An Introduction to Pragmatics" London: Longman")
3. その他授業中に紹介する。

［教科書］

1.杉本公司（著）「意味論2」ー日英対照による英語学演習シリーズ８
くろしお出版、1998年
2. 高原脩、林宅男、林礼子（共著）「プラグマテイックスの展開」、
勁草書房、 2002年

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
統語論 （旧　英語統語論Ⅰ（統語論入門）（２）） （旧　英語統語論Ⅱ（英語の統語現象）（２））		秋学期集中	４単位	清　水　真　一

［講義概要・学習目標］

本講では、まずもって人間言語一般にかかわる議論から話しを始めることにする　そうして、英語における基本的な構文に関する若干の整理を試みて、しかる後、英語の基本的な節の統語と、名詞の統語を中心に論じてみたい　その中で人間言語を特徴付ける「局所性」との関連にとくに注目することにする　本講が、狭義の文法としての統語論に対する興味関心を醸成する一助となれば幸いである　出席はとくに重視する.

［講義計画］

1. 人間言語って？
2. 英語の主要構文
3. 節の構造
4. 移動
5. 節の構造(発展編)
6. 名詞の統語
7. まとめ

［成績評価の方法］

原則として、試験、クイズ、出席に基づいて総合評価をおこなう.

［教科書］

プリントを配布する.

［参考文献］

授業で随時、指示する

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
英語史		春学期集中	４単位	野　原　康　弘

［講義概要・学習目標］

イギリスを旅してまわると、いろいろなところで、いろいろな民族が残したものを見ることができる。南西部のソーズルベリー平原には、ケルト民族（あるいは、それ以前の民族）の遺産「ストーンヘンジ」が今でも謎として残されている。スコットランドに近い北部を横断している「ハドリアヌスの城壁」は、約２千年前のローマ人の支配がいかに強かったかを見せつけている。「サクソン海岸」と呼ばれている東部の海岸は、ゲルマン民族の侵略と征服を今に伝えている。「リンディスファーンの破壊された修道院の遺跡」はバイキングの侵略の激しさを物語っている。さらに辞書の上では、おびただしい数の「フランン語からの借用」が１０６６年以後、約３００年以上のノルマン人の征服と支配を私たちに知らしめている。

このような外的な歴史の変化にともなって、英語という言語がもたらされ、それ自体も大きく変化してきたのである。したがって、この講義では「英語」という言語が外的な歴史と関連して、「英語」自体の内的な歴史をどのように展開してきたかを学ぶことになる。

［講義計画］

１．英語の祖先語
２．ケルト人の遺産
３．ローマ人による征服
４．ゲルマン人による征服
　　英語の始まり
５．古期英語
６．バイキングによる侵略
７．ノルマン人による征服
８．　中期英語前期
９．　中期英語後期
１０．近代英語の始まり
　　英国のルネッサンス
　　シェイクスピアの英語
１１．近代英語後期
１２．アメリカ英語

［成績評価の方法］

試験で判断するが、１７回以上の出席が絶対に必要。

［教科書］

『英語史入門』　H. Koziol　（小野　茂　訳）　南雲堂

［参考文献］

McCRUM,R. 1986. The Story of English
その他の参考文献は授業中にそれぞれ指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
英語学研究（英文法とコミュニケーション）		秋学期集中	4単位	Michael Carroll（マイケル キャロル）

［講義概要・学習目標］

この授業では、高校までに勉強した英語の文法を考え直させる。英文法は学校科目だけではなくて、コミューニケーションのためであるから、この授業では、英語を簡単に使うように文法を熟考しながら、authentic英語を聞き、会話を練習する。特に典型的な誤りを気づく気づいて、自分の英語使い方を上達させる。

In this course the grammar that students have studied in High School will be re-evaluated. English is not just a school subject, it is a means of communication. In this course students will listen to authentic English and practice speaking, at the same time as they consider English grammar, in order to become able to use English easily. In particular, by noticing typical errors they will improve their ability to use English.

［講義計画］

ミニ講義、聴く・話す練習、日記、ディスカッション。
授業は大体英語で。

Mini-lectures, listening and speaking practice, discussion.
This course is mostly in English.

［成績評価の方法］

出席、レポート・日記、試験を評価する

［教科書］

Ellis, R. and Gaies, S. 1999 Impact Grammar: grammar through listening. Hong Kong: Longman Asia ELT ISBN 962-00-1428-6

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
英米小説研究（英米小説の名作を読む） （旧　イギリスの小説（英米小説の名作を読む）（2）） （旧　アメリカの小説（英米小説の名作を読む）（2））		秋学期集中	4単位	中　村　祥　子

［講義概要・学習目標］

18世紀にイギリスで出版された『ロビンソン・クルーソー』と『ガリヴァー旅行記』は、当時たちまちベストセラーになりましたが、この二つが小説という文学形式の最初の作品とされています。その特徴はストーリーの面白さと社会批判の鋭さですが、それは後に書かれた多くの優れたイギリス小説やアメリカ小説に引き継がれてきました。

講義では、そうしたイギリス小説とアメリカ小説の代表的なものとして、Thomas Hardy の Tess of the D'Urbervillesと Brnest Hemingway の A Farewell to Arms を取り上げます。Hardy は巧みなストーリー展開の中に、主人公たちの悩み・苦しみ・喜びなどを精緻な心理描写によって表現しています。そして何故この恋愛の悲劇が起こったのかを、社会背景をリアルにとらえることで明らかにしていきます。また Hemingwayは、現代に適した簡潔な文体で情熱的なストーリーを描き、その背景も広くグローバルにとらえて、現代社会の様々な問題を考えさせます。こうした二作品を具体的に読むなかで、文学作品の読み方を様々な角度から論じ、優れた小説を読むことの意義を考えていきます。特に長編小説を読むことの真の面白さを会得して欲しいと思います。

［講義計画］

先ず Hardy の Tess of the D'Urbervilles から取り上げ、重要な部分を重点的に精読しつつ、左記の講義概要に沿って論じます。次いで、 Hemingway の A Farewell to Arms について、同様に論じていきます。

［成績評価の方法］

期末試験の成績、平常の成績の総合評価によります。平常の成績には、出席状況のほかに、指示した読了文献をどれだけ真面目に読んできたかも加味します。

［教科書］

① Thomas Hardy 著　Tess of the D'Urbervilles　（大阪教育図書）
黒田 巍 注解

② Ernest Hemingway 著　A Farewell to Arms　（英潮社）
福田陸太郎 監修／高村勝治 注釈

［参考文献］

授業中に指示します。

英米02

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
英米演劇研究（ハムレット・ザ・ムービー） （旧　イギリスの演劇（ハムレットを観る）（２）） （旧　アメリカの演劇（ハムレットを観る）（２））		春学期集中	４単位	小　野　良　子

［講義概要・学習目標］

現代、シェイクスピアの芝居を楽しむ方法は劇場に足を運ぶことだけではない。もちろん、戯曲を読むことに最高の満足を覚える人もいるだろうが、そもそも娯楽である芝居を〈娯楽〉として観客に提供してくれる最もポピュラーな形式は、現代では映画だろう。
シェイクスピアの作品の中で最も映画化されているのは『ハムレット』で、現代の私たちは映像というスタイルと手段で、多種多様の『ハムレット』のヴァリエーションを体験することができる。
本講義では、２０世紀の娯楽形式(映像)で描かれる『ハムレット』の世界を〈読む〉ことが目的である。

［講義計画］

１．　講義のポイント
２～２２．　『ハムレット』の映像／テクストを〈読む〉
（１）ケネス・ブラナーの『ハムレット』（１９９６年）
（２）ローレンス・オリヴィエの『ハムレット』（１９４８年）
（３）トム・ストッパードの〈ハムレット〉―『ローゼンクランツとギルデンスターンは死んだ』（１９９０年）
２３－２４．　まとめ

［成績評価の方法］

小エッセイ―授業毎に提出
ロングエッセイ―学期末に提出

［教科書］

シェイクスピア、『ハムレット』、研究社小英文叢書
トム・ストッパード、『ローゼンクランツとギルデンスターンは死んだ』（プリント配布）

［参考文献］

授業中に紹介する

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
英米詩研究（現代詩と都市） （旧　イギリスの詩（現代詩と都市）（２）） （旧　アメリカの詩（現代詩と都市）（２））		秋学期集中	４単位	日　下　隆　平

［講義概要・学習目標］

近代から現代にかけて都市、特にロンドンは様々な形で描かれてきた。
しかし、外面的な都市の風景はしだいに個人の内面を映し出すものとなり、内面化の過程をたどってゆく。このような都市の風景が心象化ないし内面化を辿ってゆく過程で、大きな転機となったのがジェイムス・トムソン（別に同姓同名の詩人がいるので注意）「恐怖の夜の都市」であろう。都市を主題にした詩は数多いが、現代のエリオット『荒れ地』等が生まれる土壌となった作品である。以上のように、この講義では19世紀末から今世紀にかけて都市がどのように描かれてきたかについて検討してゆく。

［講義計画］

William Blake, "London",
William Wordsworth, "Composed upon Westminster Bridge"
James Thomson, " The City of Dreadful Night "
Charles Dickens, "Night Walks"
Richard Le Gallienne、"A Ballad of London"
等、の詩を扱う。

T.S. Eliot, "The Holow Men"," Preludes",
"The Love Song of J. Alfred Prufrock"
"Rhapsody on a Windy Night"

［成績評価の方法］

試験による。

［教科書］

プリント配布

［参考文献］

授業で指示する

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
アメリカ文学史		秋学期集中	４単位	伊藤　貞基

［講義概要・学習目標］

植民地時代から現在にいたるまでのアメリカ文学の動向や、有名な作家や作品を、それぞれの時代背景と関連させながら考察していく。使用する教科書は、大きな社会変化をもたらす契機となる戦争を区切り目として５部に分かれ、文学史の教科書にしては珍しく、各部にはそれぞれかなり詳しい時代思潮のセクションがついている。年表と地図などを除く本文だけで２８４頁あるので、毎回かなりの分量に目を通しておいてもらうことになる。

［講義計画］

毎回１０頁以上を読んできてもらい、その箇所に出てくる重要事項について解説する。同時に、作品からの抜粋（Ｂ４版で１０枚以上を配布する予定）に目を通してもらう。

1 ～ 4 回 第１部（1492—1820）：アメリカ大陸の発見～植民地時代～アメリカの独立～対英戦争　までの時代思潮と散文と詩（pp. 1-32）
5 ～10 回 第２部（1820—1865）：対英戦争～国民意識の高揚～超絶主義～マニフェスト・デスティニイ～南北戦争　までの時代思潮と散文と小説（pp. 33-78）
11～15 回 第３部（1865—1914）：南北戦争後の近代化と都市化～金メッキ時代～リアリズム文学の形成～革新時代～自然主義の発生～資本主義、市民文化、消費文化の形成　までの時代思潮と小説と劇（pp. 79—118）
16～20 回 第４部（1914—1945）：両大戦のはざま～狂乱の２０年代（ジャズエイジ）～モダニズムの形成～世界大恐慌～ヒットラーの台頭　までの時代思潮と小説と、詩、そして、劇（pp. 119—174）
21～　回 第５部（1945—現代）：戦後世界の二極構造化～アメリカの世紀と大衆社会の出現～ビート世代の文学～開かれた６０年代と若者革命～ブラック・ユーモアの文学～不確かさの７０年代とミーイズムの８０年代～フェミニズム文学とエスニック文学の隆盛～保守主義の台頭と冷戦の終結～ニューリアリズムの出現までの時代思潮、小説、詩、劇、そして、批評（pp. 175—283）

［成績評価の方法］

平常点（授業時の質疑応答、作品からの抜粋のハンドアウトをきちんと読んでいるか否かをチェックする小テスト）、定期試験時の筆記試験あるいはレポートによる。

［教科書］

別府恵子/渡辺和子編著
『新版アメリカ文学史—コロニアルからポストコロニアルまで—』

［参考文献］

1) 高田・野田・笹田　編著『たのしく読めるアメリカ文学——作品ガイド１５０——』　ミネルヴァ書房.　1994.　¥2,800
2) 猿谷　要編『アメリカ史重要人物１０１』　新書館　1997.　¥1,600.
3) Peter B. High, *An Outline of American Literature.* Longman. 1986.

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
イギリス文学史 （旧イギリス文学史Ｉ）		春学期集中	４単位	金　城　盛　紀

［講義概要・学習目標］

イギリスの文学を中世における起源より現代まで、できるだけ作品に触れながら跡づける。時代背景や作家・作品の特徴などにも注意を向けるが、無味乾燥になりがちな抽象的説明は最小限にとどめて、作品を読むことによって文学の流れを追体験できればと願っている。そのためには相当の予習を必要とすることを強調しておきたい。努力はイギリス文学の豊かさと面白さを味わう形で十分に報いられると思う。

指定テキスト以外にプリント資料も使用する。作品はできるだけテープ音声でも聴いていただき、対象によってはヴィデオも利用する。

［講義計画］

それぞれの時代を代表する主要な詩人・作家を中心に取り上げる—Chaucer, Spenser, Shakespeare, Donne, Milton, Pope, Wordsworth, Tennyson, Dickens, Yeasts, Joyce, Eliot。

［成績評価の方法］

試験と平常点

［教科書］

荒牧鉄雄・岡地嶺著　*Readings from English Literature*（英文学読本）（開文社出版）

［参考文献］

図書館の指定参考書棚に取り揃えてある。

英米 02

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
英米文学と現代の諸問題（男女の出会い） （旧　現代の諸問題と英米文学Ⅱ（男女の出会Ⅰ）（2）） （旧　現代の諸問題と英米文学Ⅱ（男女の出会Ⅱ）（2））		春学期集中	4単位	岡田章子

［講義概要・学習目標］

現代では男女が出会う機会は多い。学校や職場で知り合い、親しくなってゆくのに、ひと昔前のように社会の偏見はない。しかしながら、深刻に考えすぎるのか、引っ込み思案なのか、案外よき友人を得られずに孤独に悩む人は多いようだ。あるいは世間でよく見られる俗っぽい結びつきしか考えられない人もあるかもしれない。本講義はそんなレベルの低い男女の問題を越えて、ちょっとしたからくりで結びつきは成立したり、こわされたりする滑稽なものだと余裕をもった考え方を取り上げる。シェイクスピアの『から騒ぎ』を読んで、人間とはいかに浅はかで、いい加減なものかを考える。翻訳を使用するが、必要に応じて原文も読んで、シェイクスピアの呈示する男女の織りなすロマンスの世界に一歩踏み入れたい。学生はレベルの低い興味本位の男女の問題ではなく、生涯にわたって自分自身の人間関係の問題として、人との出会いを考えられるようにしてほしい。毎時間きちんと出席し、テキストを精読することが求められる。

［講義計画］

1. 社会の中で男女の出会いの問題を捉える。
2. 『から騒ぎ』を読む。
3. まとめ—人間関係を余裕をもって考える。

［成績評価の方法］

平常点
定期テスト

［教科書］

ウイリアム・シェイクスピア　『から騒ぎ』(白水社)
小田島雄志 訳
1. 生協にて一括購入し販売する。

［参考文献］

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
英米文学と現代の諸問題（自我形成の軌跡） (旧現代の諸問題と英米文学Ⅰ(自我形成Ⅰ)(2)) (旧現代の諸問題と英米文学Ⅰ(自我形成Ⅱ)(2))		秋学期集中	4単位	佐々木　英　哲

英米02

［講義概要・学習目標］

昨年（2002年）、力強くも輝かしい正統的アメリカ思想の源泉を探るべく、Emerson (1803-82)の *Nature*、"Self-Reliance" を「英米文学と現代の諸問題Ⅰ」で取り上げた。2003年度の本講座は、その続編とも言うべきものである。従って、昨年度、「英米文学と現代の諸問題Ⅰ」を受講した学生も、今年度エマソンが初めての学生も、この授業を履修することは可能である。

本講座の目的は三つある。(1): 教養のあるアメリカ人ならほとんど誰もが知っているエマソンに、自分達も親しむこと。(2): 英文が正確に読め、なおかつ、その中身を消化できること。(1)・(2) は、教養あるネイティヴに引けをとらない語彙力と読解力を身につけることである。そして、(3): 英語のロジックに習熟すること。さらに、単なる習熟に満足せず、敵のロジックを崩し、己のアーギュメントを打ち立てること。英語でアカデミックな論議ができること。これは、安易に拝米主義に走らず、己の主張をすることである。あるいは、アーギュメントなどという堅苦しいことを言わないにしても、挨拶レヴェルの英会話ではなく、エスプリの効いた話題を口にできることである。

この目的を達成するために、本講座では次の三つの方法を試みる。

第一に、エマソンの中期後期のエッセイを取り上げ、エマソンの自我形成の軌跡を解明する。アメリカが欧州から文化的独立を果たし、アメリカのピューリタン的伝統そしてリベラルなユニテリアン思想さえをも乗り越えるように求めたエマソン。人格尊厳を基本とする民主主義精神と、個人の内的直感とを重視するように、と叫んだエマソン。人生の前半には自信に満ち溢れていたエマソンも、現実と折り合いをつけざるを得なくなり、次第にペシミスティックな容貌を帯びてくる。エマソンの自我はいかなる放物線を描くか。

第二に、エマソン思想の論拠を突き崩す作業を試みて、エマソン思想の弱点を炙り出す。強靭そのものかに見えた自我のロジックが、脆くも崩れていくのは何故か。どこに盲点があったのか。エマソンは、F. O. Matthiessen の古典的名著*American Renaissance*で祭り上げられたこともあり、批評用語で言う「正典(canon)」を書いた作家として、アメリカ文学史に鎮座することになった。さらにMatthiessen以後、多くの批評家が彼の衣鉢を受け継ぐことになった。本講座では過去の研究者の意見を真摯に受け止めつつも、エマソンの虚像に囚われることなく、彼の実像に肉迫する。

第三に、敵の論拠を掘り崩す手段として、フェミニズム・精神分析学などの援用が有効な場合は、それらを積極的に、かつ貪欲に利用する。学際的(interdisciplinary) であることは、昨今の批評動向であり、2003年を生きる我々読者としてもそれを無視するわけにはいかない。

［成績評価の方法］

(1) 学期末レポート提出（英文）。(2) 読解力をみる試験。通常の授業時に時間を少し割いて行う。平常点にする。(3) 授業参加度。出席は毎回とるが、参考程度にとどめる。

［教科書］

Emerson, Ralph Waldo. *The Portable Emerson.* Ed. Carl Bode and Malcolm Cowley.
New York: Penguin, 1981.
昨年度、「英米文学と現代の諸問題Ⅰ：米思想の源」で使ったテキストと同じ。

［講義計画］

洗練された第一級の英語のテキストから、織り込まれている思想を掬い上げる作業が中心となる。あらかじめ念入りに下読みをしたうえで授業に臨まない限り、出席だけしても効果はあまり期待できないので、受講する場合はその心積もりでいてほしい。下読みができない場合、門前払いはしないが、お引き取り願いたい。その思想なるものを掬い上げたら、それを自分の言葉で編み直し、表現する（レポーターとしての口頭発表、及び英文による学期末レポート）ことになる。英文によるレポートの書き方はこちらから指導するので、なんら心配する必要はない。言うまでもないが、他分野、他領域で実践的に応用転換のきく英語読解力、英語表現力向上を目指すことも、本講座の将来的な目標の一つとして、射程範囲に組み入れてある。

取り上げるエッセイ
"Spiritual Laws"
"The Over-Soul"
"Experience"
"Fate"
"Illusions"

取り上げる詩
"Bacchus"
"Days"

［参考文献］

Matthiessen, F. O. *American Renaissance: Art and Expression in the Age of Emerson and Whitman.* New York: Oxford UP, 1941.

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
英米文学と現代の諸問題（生きる（To Live）） （旧現代の諸問題と英米文学Ⅲ（生きるⅠ）（2）） （旧現代の諸問題と英米文学Ⅲ（生きるⅡ）（2））		通　期	4単位	谷　本　泰　三

［講義概要・学習目標］

日常生活をなんとなく送っている私たちに「生きるって、どういうことなんだ」とい問いかけて迫ってくる。そんな作品を2編選んで検討する。生きることの意味を真剣に求める脱獄囚、その苦しみが理解できない善良な老女、この二人の偶然の対決。それと、重度の傷碍をもつ女性が、自己の存在意義を見い出す糸口となる悪魔とのデート体験。この２編、アメリカ女流作家F．O'Conner の作品である。原作品を確実に読むことは、思いもよらなかった問題と出会う切っかけとなるだろう。受講生それぞれが作品のなかから素晴らしい問題を見出し、素晴らしい解答を構築して欲しい。

［講義計画］

春学期
- 1　受講についてのガイダンス
- 2-9　Good Country People テキスト検討
- 9-11　小論文指導
- 12　予備

秋学期
- 1-2　春学期提出論文の検討と批評
- 3-10　A Good Man Is Hard to Find テキスト検討
- 11　小論文指導
- 12　予備

［成績評価の方法］

春学期末と秋学期末にそれぞれ提出する小論文。
発言や質問などから見えてくる平素の努力を重視する。

［参考文献］

教室で指示指導

［教科書］

Flannery O'Conner著　*A Good Man Is Hard to Find*　南雲堂
谷本泰三『講義アウトライン』

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
ディスカッション法 （旧　英語ディスカッション）		秋学期集中	4 単位	ラウール Raoul　セルバンテス Cervantes

［講義概要・学習目標］

This class will focus on serious discussions of English language movies. Each week, will view a movie, and discuss several scenes from the movie. Topics will include character, personality, psychology, and filmmaking. Only English will be spoken, no Japanese or translation. Students must attend classes and complete any homework. To pass this class, student must be able to use spoken English. This class is not for beginners.

［講義計画］

During the first half of the year, we will discuss the movie "Memento." This film focuses on psychological topics including memory and reality. During the second half of the year, we will discuss the film, "Schindler's List." This film will focus our discussion on morality, personal choice, and how our social environment shapes us.

［成績評価の方法］

student performance in class

［参考文献］

［教科書］

英米 02

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
ディベート法 （旧　英語パブリック・スピーキング）		通　期	4 単位	萬　戸　克　憲

［講義概要・学習目標］

問題点について　①論理的な思考をし　②相手を説得し　③その場で反駁するなどのことが、英語でできる技能を身につける。
準備、発表など毎時間積極的な取り組みが必要である。かなりきつい授業であるので、覚悟して受講してほしい。
この授業を通じて、英語で自由に自分の意見を述べたり、相手に反論できるようになることを期待している。
なお、授業に先立って教務課でプリントを受け取り、次の課題について最初の時間にessay（B5版で3～5枚）を書いて提出することで受講を認める。
① debate とdiscussionとはどのように違うか
② debateを通じて、どのような力を身につけることができるか
③ この授業に対する私の期待

［講義計画］

1．前、後期を通じて、毎時間2分間の英語でのspeechを課す
2．前期にはdebateについて基本から学習し、様々な問題について、論理的に考えるとはどのようなことなのかということから始める。
3．後期は実際にacademic debate（真剣勝負）に取り組む

［成績評価の方法］

授業への参加度および speech
3回以上の欠席は単位を認めない

［教科書］

T. Nishimoto　*Both Sides Now*　Seibido

［参考文献］

Y. Matsumura 他　*Enjoy Debating*　Eichosha

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
翻訳研究（旧　英・日語翻訳法）		通　期	4単位	柳父　章

英米02

［講義概要・学習目標］

翻訳は英文和訳とは違う。どういう風に違うかというと、翻訳はまず日本語でなければならない。英文和訳は、英語の勉強の必要上、教室内でつくられた特殊な日本語である。こういうことを、最初に講義する。
それからあと、下記の教科書の英文を、毎時間1ページくらい翻訳してきて提出してもらう。これは毎時間の宿題である。
そして、提出された翻訳を訂正し採点して、できれば次の時間に返却したいが、これは参加者が多くなると不可能になるだろう。
目標は、翻訳することで、英文が精密に読み込めるようになり、また、日本文もしっかりと書けるようになること。
毎時間自分の翻訳を提出しなければならないので、きっちり出席しないと合格できない。

［講義計画］

まず教科書の英文を中心に翻訳の勉強をする。毎時間翻訳する分は少ないが、おもしろそうで、かなりむつかしい文章を選んである。

［成績評価の方法］

毎時間提出してもらう翻訳を採点し、その総合で評価する。
期末試験はとくにおこなわない。

［教科書］
Makoto Shishido & Bruce Allen 著
" Global Understanding"
（異文化理解と国際ビジネス）
SEIBIDO（成美堂）２００３年刊行
（生協で販売）

［参考文献］

私じしんの翻訳についての著書や論文があるが、それは随時授業の中で紹介していく予定である。

《インテグレーション科目》

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　チ　ー　フ
学科特殊講義（言語と文化）		春学期	2単位	Kevin R. Gregg（ケビン グレッグ）

［講義概要・学習目標］

There are thousands of different cultures in the world, and there are thousands of different languages. But although these cultures are all different from each other, they are also the same in many ways, and the same is true for languages. In this class we will look at some of the ways in which culture and language are connected to each other, and at some of the ways in which they are independent of each other.

This class will be taught by different members of the faculty, and it will be conducted ENTIRELY IN ENGLISH. The lectures will be in English, homework will be in English, and reports and tests will be in English.

［講義計画］

Tentative list of topics to be discussed
(not necessarily in this order):

1. Universal and particular in language and culture
2. "Innate ideas": What do we know without learning it?
3. Do different languages make people think differently?
4. Ways of expressing politeness in language: universal principle and cultural variation
5. The biolinguistic approach to natural language: Experiments on your brain
6. Is Japanese a difficult language to learn?
7. Who wants to learn Japanese and how?
8. A feminist approach to Japanese animation films
9. Body politics in Japanese animation films : Why technological bodies?
10. How langauge is born: Pidgins and Creoles
11. How language dies: Endangered languages and language shift.

［成績評価の方法］

Attendance is required at every class. There will be no final examination, but there will be a number of short reports, in English, of course.

［教科書］

There is no textbook for this course. Instead, each lecturer will prepare various handouts and other material, and will distribute them in class.

［参考文献］

To be announced in class.

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
マスコミの英語研究 （旧　マスコミの英語）		通　期	4 単位	萬　戸　克　憲

［講義概要・学習目標］

現在日本および世界の各地で起こっている重要な問題について、英文雑誌TIMEの記事とアメリカCNNの放送の両方で学習する。
あわせて文字による表現と音声による表現の違いを学び、これらの問題について自分の考えを英語で積極的に表現できるように構成する。

この講議は途中で欠席すると効果があがらないので、欠席はしないように。

［講義計画］

前期　Cosmetic Surgery
Aids Orphans
British and American Music

後期　Monkeys and the Rainforest
War and Peace
Traveling and Festivals

［成績評価の方法］

授業への参加度（スピーチを含む）
期末考査

［教科書］

Tom Power 他　*Hot Topics: From Reading to TV News Listening* Shouhakusha

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
英米文学とキリスト教 （旧　キリスト教と英米文学）		通　期	4 単位	谷　本　泰　三

［講義概要・学習目標］

神と悪魔、信仰と疑惑、希望と絶望、従順と反逆、このような対極の間でバランスをとろうとする人間を描いた英米文学作品を取り上げる。その狙いは、英米文学史の底流となっているキリスト教思想や反キリスト教思想を検証して、キリスト教への理解を深め、優れた文学作品が思想に命を与える様子を見ることにある。作品から喜びや、恐怖、そして感動を体験して欲しい。講義は常に聖書に言及しつつ原作品に密着して行う。指示された作品の原典を予習しておくことが必須となる。講義の詳細なアウトライン（学習ガイド付き）を用意しておくのでそれに従って予習するように。

［講義計画］

春学期
1 序論　講義開始に当たって
2 E.E. Cummings "Buffalo Bill's defunct" 死を超えるイエス
3-4 A. Marvell "To his Coy Mistress" 生への空しい欲望
5 J. Donne "Death not be Proud" 死なんて怖くない
6 W. Wordsworth "We Are Seven" 永遠の命と無垢
10 J. Milton "On His Blindness" 絶望から希望への信仰
11 Milton "On the Late Massacre in Piedmont" 死と再生
秋学期
1-10 Hawthorne "The Birthmark" 永遠の命を掴みそこねた科学者
11 まとめ

［成績評価の方法］

春　期　小論文
秋　期　期末試験
年間を通じて平素の努力点

［教科書］

聖書（キリスト教センター提供）
Hawthorne *Young Goodman Brown and Other Stories* 大阪教育図書
谷本泰三「学習ガイド・講義アウトライン」

［参考文献］

教室で指示指導

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
日本文化研究 （ケガレ・差別と日本文化）		秋学期集中	4単位	寺木伸明

［講義概要・学習目標］

本講義では、ケガレ・差別の視点から日本文化史全体を考えてみたい。日本文化史を分析する切り口は多種多様で、すでに多くの優れた研究があるが、ケガレ・差別を切り口とした研究は少なく、今後の研究にまつところが多い。

ところが、日本文化の底流の一つにこのケガレ・差別の問題が強い流れとして存在してきたし、今も存在している。たとえば、女人禁制の問題がそうである。いまだに大相撲の土俵の上に女性があがることは許されていない。大峰山などの修験道道場となっている山々への女性の登山も認められていない。こうした現象の背景には、日本文化の地下伏流として流れているケガレ・差別の問題が横たわっていると考えられている。

講義では、このケガレ・差別がどのようにして日本社会に発生し、どのように変遷を遂げ、日本文化とどのような関係をもってきたのかを、探っていきたいと考えている。

［講義計画］

はじめに――ケガレ・差別とは何か
1　古代社会におけるケガレとキヨメ
2　中世仏教とケガレと差別
　――旧仏教と鎌倉新仏教との比較――
3　中世文化とケガレ・差別を蒙っていた人々
　――能楽・傀儡子・石庭作り――
4　近世身分制社会とケガレ・差別
　――部落差別・歌舞伎と差別――
5　近世の知識人にみるケガレと差別
6　近世仏教とケガレと差別
7　近代国民国家とケガレと差別
　――部落差別・女性差別・ハンセン病者差別――
8　現代文化とケガレ・差別を考える

［成績評価の方法］

学期末に実施する試験の成績を基本にして出席点（適宜、出席カードに簡単な感想を書いてもらう）を加味して総合的に評価する。

［教科書］

［参考文献］

原田信男『歴史のなかの米と肉――食物・天皇・差別』平凡社
山本幸司『穢と大祓』平凡社
柏原祐和泉『仏教と部落差別――その歴史と今日――』部落解放研究所

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
日本文化研究（柳田国男『山人考』批判）		秋学期集中	4単位	梅山秀幸

［講義概要・学習目標］

今世紀初頭、柳田国男は二度にわたって、かなりの長期の岐阜県の調査旅行を行っており、その成果は『山の人生』および『毛坊主考』といった初期の作品の中に取り入れられている。その足跡をたどりつつ、柳田国男の叙述を読みなおすとき、かなりの「創作」といっていいものが目立つ。たとえば、『山の人生』の冒頭の「西美濃」の山奥の子ども殺しは、その実行者の後年の告白がたまたま残されていて、それとつき合わせると、実に出鱈目である。また、飛騨白川郷での農家の軒先の見聞から、『毛坊主考』は書き始められ、浄土真宗の揺籃期について論じられているのだが、白川郷は江戸初期に高山に移った照蓮寺が勢威をふるった真宗王国だったのである。柳田国男の「勇み足」の意味を考えながら、山国の人々の精神生活に思いを致したい。

［講義計画］

1、『秋風帖』を読む
2、『越前美濃紀行』を読む
3、『山の人生』
4、「新四郎さの告白」
5、『毛坊主考』
6、一向一揆　真宗の発展について
7、飛騨というところ
8、飛騨の真宗　『岷江記』という書物
9、山国の生活

［成績評価の方法］

レポートを課す

［教科書］

なし

［参考文献］

『柳田国男全集』（筑摩文庫）

国際 02

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
日本文化研究（日本思想の諸問題）		通　期	4単位	三　宅　正　彦

［講義概要・学習目標］

日本近代の代表的思想を追究する。基本資料の読解に重点をおく。

［講義計画］

(1) 日本近代におけるアジア観
(2) 日本近代における伝統観
(3) 日本近代における天皇観の対立
(4) 日本近代における革命論の対立

［成績評価の方法］

期末試験（講義に欠かさず出席して理解に努めていれば単位取得は容易。欠席したり、授業に集中していなかったりすれば単位取得は困難である。）

［教科書］

資料を配付する。ただし、配付時に出席していた人に1回限りで配布する。そのとき欠席していた人には追加配布は行わない。資料をなくしたり、持参するのを忘れたりした人には再配付しない。毎時、資料を持参しなければ授業理解は困難である。

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
アジア文化研究（韓国・朝鮮文化）		春学期集中	4単位	青　野　正　明

［講義概要・学習目標］

近年、日本と韓国との交流が様ざまな分野で盛んになってきた。そのため、現代韓国に関心をもつ人たちが急激に増えている。

そのような状況を踏まえて、この授業では現代韓国の理解に重点を置きながら、韓国・朝鮮文化一般を概説していく。具体的には、歴史・地理・宗教・言語・社会制度などの諸項目について、視覚資料の多い教科書を用いながら学ぶことになる。

知識として知ることも必要だが、異文化の特質を見いだし理解するための視座や学問的技術も併せて修得することを目指したい。

［講義計画］

歴史　地理　宗教　言語　社会制度　風俗
集落と住居　衣服　料理と酒　美術　音楽
北朝鮮事情

また、在日韓国・朝鮮人の人権、日韓の歴史教科書問題や、韓国での日本の大衆文化「開放」についても講義する予定である。

［成績評価の方法］

出席状況、受講態度、期末試験を総合的に評価する。

［教科書］

金両基監修『読んで旅する世界の歴史と文化・韓国』新潮社、1993年

［参考文献］

必要に応じて授業中に紹介する。また、プリント類も配布し、ビデオ・写真等も見る予定。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
アジア文化研究 （イスラームの過去と現在）		春学期集中	4単位	今　澤　浩　二

［講義概要・学習目標］

現在，イスラーム教徒は 14 億人を越え，10 数年後には世界人口の 3 分の 1 を占めるようになるとさえ言われる。イスラーム世界が現在の世界情勢に与える影響も大きくなっている。

本講では，こうしたイスラーム世界がどのようにして興り発展してきたのかを，歴史を振り返りながら考え，現代のイスラーム情勢や文化について考察を加える。

［講義計画］

序　イスラームとは何か

1．イスラーム世界の過去
　（1）イスラーム世界の成立
　（2）アラブ帝国とイスラーム帝国
　（3）イスラーム世界の分裂
　（4）トルコ民族の活躍
　（5）オスマン帝国とヨーロッパ

2．イスラーム世界の現在
　（1）イスラーム原理主義
　（2）タリバーンとオサマ・ビン・ラーディン
　（3）パレスチナ問題
　（4）イラン・イスラーム革命と湾岸戦争
　（5）イスラーム対アメリカ

3．イスラーム文化の諸相
　（1）女性，ハーレム
　（2）宗教儀礼

［成績評価の方法］

学期末試験と授業中の小テストにより，総合的に評価する。

［参考文献］

授業中に随時，紹介する。

［教科書］

なし。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
ヨーロッパ文化研究（フランス文化）		春学期集中	4単位	赤瀬　雅子

［講義概要・学習目標］

西欧の中の西欧といわれるフランス文化は、確かに世界中から憧憬の目で見つめられる文化のひとつである。華美で軽薄な文化と信じている人々も多い。

しかしフランス文化の本質は、重厚で農民的なものである。そして厚い信仰が文化の基層にあることも忘れてはならない。

また、他国に文化を常に憧憬し、その文化を自己の文化の中に取り入れる独特の才能と美質がこの文化の中にある。

それらについて、その本質が心底から理解できることを目標として学習していただきたい。

なおその学習の中では、常に比較文化的視点を持つことが望ましい。わが国の文化が、フランスに与えた影響なども考えながらの学習が求められる。

［講義計画］

ヨーロッパ文化としてひとつに括ることのできる文化とは何かを、先ず考える。ついでフランス文化とは何かを考えて行く。

それをテキストの著者の体験とこの科目の担当者との体験に根ざした具体的な事実から学習に入って行きたい。毎時間そのような方法を用いたい。

［成績評価の方法］

この講義を通じて、また学生一人一人の読書や体験を通じて学んだことをすべて試験答案に書いていただきたい。もちろんその方法はこの講義の中で述べるが、その答案を中心に評価する。

［参考文献］

富田仁著『パリ点描』駿河台出版社刊

［教科書］

小林善彦著『フランス学入門』 白水社刊

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
ヨーロッパ文化研究（ロシア文化）		秋学期集中	４単位	国　松　夏　紀

［講義概要・学習目標］

ヨーロッパ vs.アジア、後進性 vs.先進性、強固な規範 vs.激しい逸脱、聖 vs.俗、限りない夢想 vs.現実主義、...様々な局面において相矛盾する要因をはらむロシアとその文化を歴史的に検討する。

おそらくは、極めて図式的ではあるが、これら矛盾の「止揚」こそがロシアとその文化なのである。さらに一般的にも、「文化」とは様々な局面での「接触」における対立解消装置・機能であろうとの見通しのもと、講義をすすめる。

［講義計画］

下記参考文献の枠組みを借用し、

Ⅰ．背景　10世紀～13世紀
Ⅱ．接触　14世紀初期～17世紀初期
Ⅲ．教会分裂の世紀　17世紀中期～18世紀中期
Ⅳ．貴族文化の世紀　18世紀半ばから19世紀半ば
Ⅴ．新しき岸辺へ　19世紀後半
Ⅵ．不安定な巨像　20世紀

＊ 各項につき３～４講の予定。ただし、講義の流れに応じて、若干の計画変更はあり得る。また、下記参考文献の枠組みを越える範囲、とりわけソ連崩壊後に関しては、講義において補足する。

［成績評価の方法］

秋学期末レポートにより評価します。１回きりですので、力作を期待。ただし、講義の区切れ目ごとに確認のためもあり「感想文」を提出。これも評価の対象とします。出席重視、遅刻・私語厳禁。

［教科書］

特に定めません。

［参考文献］

ジェームズ・H・ビリントン著（藤野幸雄訳）
『聖像画と手斧　ロシア文化史試論』
勉誠出版株式会社　2000年5月刊（原著は1966年刊）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
ヨーロッパ文化研究 西洋中世文学史		春学期集中	４単位	米　山　喜　晟

［講義概要・学習目標］

この授業は、ヨーロッパ中世の文学の概説にあてる。だがその前に、当時の書物とはどんなものだったかを、紙や筆記用具の歴史などとともに簡単に眺めておく。

また古代ローマ文学の遺産として、ゴート族の支配下のボエティウスの『哲学の慰め』などにも触れて、古代との連続性をも考えたい。それから年代記や歴史の類いをいくつか眺めた後、『ローランの歌』に代表される叙事詩、トロバドゥールの代表的叙情詩、修道院文学の代表『アベラールとエロイーズ』、そして『バラ物語』、ファブリヨーから『神曲』、ペトラルカ、そしてイタリア・ノヴェッラやフランソワ・ヴィヨン、チョーサーなど、翻訳の抜粋、時には英訳などを用いて具体的に西洋中世の文学史をたどっていく。

［講義計画］

紙や筆記用具について３時間
歴史や年代記、最古の叙事詩類２～３時間
叙事詩２～３時間　叙情詩２～３時間
修道院文学２～３時間　『バラ物語』等１～２時間
ファブリヨーとイタリア・ノヴェッラ３～４時間
ダンテ、ペトラルカ、ヴィヨン、チョーサー３～４時間

［成績評価の方法］

出席点とレポートによる評価。今年はたびたびテキストを読んでもらって、出席点を重視したい。

［教科書］

プリント配布

［参考文献］

筑摩書房：世界文学大系６５　中世文学集
６６　中世文学集２

国際02

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
ヨーロッパ文化研究 ヨーロッパの騎士道		春学期集中	4単位	岩　津　洋　二

［講義概要・学習目標］

今年度の講義のテーマは、ヨーロッパの騎士道文化である。騎士道は中世末期に成立するが、爾来その理念はヨーロッパの理想的男性像に大きな影響をあたえてきた。歴史的には騎士の社会的な機能が失われてしまってからも、騎士道的人間観は生きつづけ、人々の心を引きつけている。騎士道物語の類型は今日でもなお「ドラゴン・クエスト」などのテレビゲームや「スター・ウォーズ」「ハリー・ポッター」などの映画に踏襲されている。

現実の騎士の姿と騎士道物語のなかの騎士の落差や、ヨーロッパ近代の騎士道への憧れは、ヨーロッパ文化の特質を明らかにし、その人間観を理解するための格好の素材である。「騎士道から見たヨーロッパ文化」といった講義になるだろう。

［講義計画］

Ⅰ．騎士の現実と理想
Ⅱ．騎士道の成立
Ⅲ．騎士道物語
Ⅳ．アーサー王伝説
Ⅴ．ドン・キホーテ
Ⅵ．ヨーロッパ文化における騎士道の意義
Ⅶ．近代社会における騎士道
（第１回目の講義で、より詳細な講義計画を示す）

［成績評価の方法］

講義への産過度・提出物・何回かのテスト

［教科書］

［参考文献］

マロリー『アーサー王の死』ちくま文庫

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
ヨーロッパ文化研究（フランス文化の諸相）		秋学期集中	4単位	ロー・ヤマサキ・アニー

［講義概要・学習目標］

きょう現在のフランス人のライフスタイル や思考傾向などについて，色々なアスペクトを通して説明いたします。

［講義計画］

- 個人としてのフランス人
  フランス人は自分の外観をどのように意識しているか
  フランスの礼儀作法
- フランスの家族
  男女のあり方
  若者たち
  日常生活
- フランスの社会
  社会生活
  価値観
- 仕事とレジャー
  就労人口
  ひまな時間とヴァカンス

［成績評価の方法］

出席，平常点と期末試験で評価します。

［教科書］

なし

［参考文献］

草場安子
『現代フランス情報辞典』
大修館書店

国際 02

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
アメリカ文化研究（　宗教・理想・挫折　） （旧アメリカ文化研究）		通　期	4単位	谷　本　泰　三

［講義概要・学習目標］

何もなように見えていた新大陸に移民たちが渡った時から、せいぜい300年くらいの間にヨーロッパ諸国に伍して世界をリードする超大国を作り上げたアメリカ人。彼らは一体何なのか。アメリカ人はどのようにしてアメリカ人になったのか。そのエネルギーの本質はどのようなものなのか。アメリカには文化というにふさわしいものがあるのか。このような問題を考えながらWinton U. Solbergの著書を読み、これを補足し、批判し、さらに解説を加えながら講義を進める。ゲスト講師によるアメリカのフォークソングに関する講義も予定したい。

［講義計画］

春学期
1 序論
2-8 アメリカ革命と独立
9-11 独自の文化樹立への夢
12 予備

秋学期
1-7 ピューリタニズム: アメリカ文化の根底
8-11 アメリカン・ドリームの外に立たされていた人たち
12 予備

［成績評価の方法］

期末試験および平素の努力点

［参考文献］

教室で指示指導

［教科書］

Solberg *A Hsistory of American Thought and Culture*　金星堂
谷本泰三『講義アウトライン』

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
日本文化史		春学期集中	4 単位	梅　山　秀　幸

［講義概要・学習目標］

英語で豚をpigというからには、豚肉はpig meatといえばすむはずである。しかし、そうはいわずに、porkという。これはフランス語のporcから来ている。同じように、牛をcowというから、牛肉はcow meatでいいはずなのに、わざわざbeefといわなくてはならない。これもまた、フランス語のboeufから来ている。料理（文化）はフランスからというわけだ。11世紀にフランスのノルマンジー公爵のギョーム（ウイリアム）がイギリスの王様になって以来、アングロ・サクソンの言葉にフランス語の言葉が混交して、現在の英語が成立したといわれる。日本には従来の「やまとことば」があり、そこに漢語が混ざり合って、表現を豊かにした。漢語が使われていない文章は、現在では考えられないが、しかし、日本文学の最高の傑作である『源氏物語』は、基本的には「やまとことば」の文学であり、さらに三十一文字のやまとことばのみを使った短詩型の文学が現在まで連綿と作られてきた。文学を通して日本語、日本文化について考えたい。お隣の韓国の文学とも比較してみたい。

［講義計画］

1、英語の場合―『アイヴァンホー』を読む―
2、日本語の成り立ち―アイヌ語と縄文語―
3、やまとことばと漢語
4、『伊勢物語』―「みやび」の文化―
5、『枕草子』―「をかし」の文化―
6、『源氏物語』―「もののあはれ」の文化―
7、「漢才」と「やまとだましい」
8、琉球―「おもろ」の世界―
9、朝鮮宮廷小説―「ハン（恨）」の文化―
10、『於干野譚』の語る壬辰・丁酉の乱（文禄・慶長の役）

［成績評価の方法］

試験による

［参考文献］

梅山秀幸編訳『ハンのものがたり』（総和社）
梅山秀幸著『かぐや姫の光と影』（人文書院）
〃　『後宮の物語』（丸善出版部）

［教科書］

なし

国際02

《 インテグレーション科目 》

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　チ　ー　フ
総合人間学		通期	4単位	尾　本　惠　市

［講義概要・学習目標］

２０世紀に多くの学問で専門分野の細分化が起き、様々な「学」が生まれた。人間に関する総合学であった人類学も、自然人類学と文化人類学とに分離し、個別に研究・教育が行われている。しかし、このような個別の学では、今日の人類が直面する地球環境、人口、教育、人権などの諸問題に充分に答える事が出来ない。２１世紀には、文理融合型で学際的な人間に関するあらたな総合学が必要とされる。

この講義は、上述の学問的要請に対応し、複数の講師によって行われる「インテグレーション科目」として２００３年度より実施される。自然科学と人文･社会科学における研究の最新成果を踏まえながら、個別的ではなく、従来の人類学に拘束されずに人間を中心にすえた新たな学際的総合教育を目指す。ここで人間とは、生物種ヒト（ホモ・サピエンス）とその文化の双方を含み、しかも現代文明のもとで様々な問題に直面しながら、科学・技術、宗教、法律、教育、芸術、文学などを生み出している主体ととらえる。また、ヒトが進化の結果生まれた歴史的産物であることを重視し、文化の多様性・相対性を認めつつも、異なる文化をもつ人々の間での行動上の共通性を抽出することによって、ヒューマニズムとは何かという人間学の最終目標にも迫りたい。さらに、実学的な側面として、人間学の成果を学校教育や人権、福祉等の面での問題解決や国際貢献に寄与させる具体的方策についても考える。

［講義計画］

複数の講師によって実施されるインテグレーション科目で、内容は次の通りである。

1. ヒト学入門：自然におけるヒトの位置、ヒトの行動の進化、ヒトの地理的多様性などについて講義する。そのため、動物行動学、大脳生理学、進化、遺伝子などの最新の研究成果をビデオ教材等によってわかりやすく説明し、理解させる。
2. 異文化理解：東西文化の特徴と地理的条件、民族性、交流史、文化摩擦と国際理解、学校における異文化理解教育の課題等について講義する。文化多様性とその根底にある基本的な人間性について認識させ、異文化理解、国際理解に資する。
3. 人間思想史：東西の哲人（アリストテレス、カント、デカルト、孔子等）が語った人間像をとりあげ、人間認識の哲学的アプローチを理解させる。また、教育相談等における人間思想史の影響について解説し、人間理解教育の深化に資する。
4. 国際人権論：アイヌをはじめ世界の少数・先住民族の歴史と現状、人権に関する国際法、学校における人権教育の現状と課題および人権教育計画等について講義する。今日、世界的に少数・先住民族の人権に関する認識が高まっている。少数・先住民族に関する国連活動や国際法等を理解させ、学校における人権教育に資する。
5. 文学とヒューマニズム：愛、孤独・不安、挫折・苦悩等とヒューマニズム、人間理解としての文学作品、学校におけるヒューマニズム教育等について講義する。東西のすぐれた文学作品のもつ人間性へのメッセージについて例をあげ、そもそもヒューマニズムとは何かについて考えさせ、人間理解の深化に資する。

［成績評価の方法］

出席点および期末試験によって成績評価を行う。

［教科書］

尾本惠市『 ヒトはいかにして生まれたか 』岩波書店（１９９８）

［参考文献］

尾本惠市（編著）『 人類の自己家畜化と現代 』人文書院(2002)。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
比較文化研究（世界の多様なメディア） （旧比較文化特講（世界の多様なメディア）		春学期集中	４単位	小池　誠

［講義概要・学習目標］

この講義の目的は世界の多様なメディアを取り上げて、身近に接している日本のメディアとの比較を通して、グローバリゼーションが進展する現代世界におけるメディアのあり方を考えることである。

私たちは日々テレビ、映画など様々なメディアに接しながら、暮らしている。メディアはすでに当たり前の存在となり、その意味を考えることもなくなっている。この授業では、ふだん目にすることのない海外のテレビ番組と映画などを見ることを通して、その国の文化を学ぶだけでなく、あらためてメディアの意味を考え直すきっかけとしたい。

テレビ番組や映画などをただ漠然と見るのではなく、それぞれの歴史的・社会的・文化的な背景を考えながら、メディアを批判的・分析的にみる目を養ってもらいたい。これは情報を主体的に読み取るメディア・リテラシーにつながることである。

講義のなかでは、異文化紹介番組からアニメ、映画、メロドラマ、音楽ビデオまで、できる限り時間をとって様々な視聴覚メディアを取り上げていきたいと考えている。

［講義計画］

1　メディアの比較研究：どのようにメディアを研究するのか？

2　異文化の表象：メディアは「外国」をどのように描くのか？

3　メディアのグローバル化：日本製アニメの海外進出

4　映画の比較研究：インド映画はハリウッド映画とどう違うのか？

5　世界のメロドラマ：日本の昼メロからインドネシアのドラマまで

6　音楽とメディア：音楽はどのように商品になるのか？

7　メディアと政治：テレビは何をどのように取り上げるのか？

8　まとめ

［成績評価の方法］

平常の出席と学期末試験の成績をもとにして評価する。また、必要に応じて提出を求める小レポートの内容も加味して成績をつける。

［教科書］

なし。

［参考文献］

講義のなかで必要に応じて紹介する。

国際 02

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
比較文化研究　（日本と外国文化の比較研究） （旧比較文化特講（日本と外国文化の比較研究））		秋学期集中	4単位	片　倉　　穰

［講義概要・学習目標］

この講義では、日本文化の諸相について、外国文化と比較しながらその性格と特質を明らかにし、世界とアジアにおける日本文化の位置づけを行なう。近年における日本文化論に関する研究成果をとり入れるが、とくに、外国文化を研究してきた立場から日本文化を見直すことができれば幸いである。

講義は、全体で4部構成であり、神話や伝説の類など、数多の文献史料（資料）、具体的な事例を素材にして展開される。受講生の皆さんとともに、日本文化と日本人を考える講義を目指したい。

［講義計画］

はじめに＝この講義の趣旨
第1部　東アジア始祖系譜の比較研究
（1）日本の始祖系譜
（2）ベトナムの始祖系譜
（3）高麗・中国少数民族の始祖系譜
（4）東アジアにおける日本の始祖系譜の位置
第2部　「英雄叙事詩」に関する比較研究
（1）日本神話のなかの「英雄叙事詩」
（2）外国の「英雄叙事詩」
（3）日本の「英雄叙事詩」の特徴
第3部『古事記』に記された習俗の比較
（1）日本の稲作儀礼とアジア
（2）婚姻をめぐる最近の研究成果
（3）『古事記』の葬儀とドンソン文化
第4部　日本人の行動に関する比較研究
（1）男装・女装をめぐる比較文化論
（2）身ぶり・しぐさの比較文化論
（3）その他
おわりに＝まとめと反省

［成績評価の方法］

出席状況と期末試験などにより評価する。

［参考文献］

随時、講義中に紹介・解説する。

［教科書］

毎時間、プリントを配布して講義を進める。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
比較文化研究（映像で見る世界の民族） （旧比較文化特講（映像で見る世界の民族））		秋学期集中	4単位	尾本惠市

［講義概要・学習目標］

世界市民になるためには、世界中の様々な民族とその文化についての一定の知識が必要である。しかし、異文化は本で読んだだけでは、なかなか実体がつかめない。そこで、「百聞は一見にしかず」というが、この授業では世界の様々な民族文化に関する映像記録を見て、異文化理解の第一歩としてもらいたい。

「民族」という概念には、二重の意味がある。ひとつは、英語のNationに相当する国民、今ひとつは国民の中に、またはそれとは独立に存在する、伝統的文化をもった民族集団（エスニシティ）である。この授業では、後者の意味での民族を扱う。民族は、その生業からすれば採集狩猟民、農耕民、牧畜民、漁労民等に大別できる。この授業では、アフリカ、ヨーロッパ、アジア、オセアニア、アメリカの順に地域を追って、それらの民族のさまざまな生業および精神生活の一端を見てゆく。

［講義計画］

国立民族学博物館作成のビデオ教材を用い、ほぼ次の地域と生業形態の別によって多様な民族・文化を理解させる。

1．アフリカ（南アフリカおよび中央アフリカの採集狩猟民、西アフリカおよび北アフリカの遊牧民）
2．ヨーロッパおよび中央アジア（伝統文化をもつ遊牧民および農民）
3．アジア（採集狩猟民、漁労民、遊牧民、農民）
4．オセアニア（採集狩猟民、漁労民）
5．アメリカ（先住アメリカ人に属する諸民族）

［成績評価の方法］

出席点ならびに期末試験の成績によって評価する。

［参考文献］

スチュアート・ヘンリ著『民族幻想論－あいまいな民族、つくられた人種』
解放出版社（2002年）

この本は、民族や人種という概念が従来いわれていたように明確なものではないことを多数の実例をひいて非常にわかりやすく説明する好著である。教科書ではないが、頻繁に利用するので、できるだけ購入すること。

［教科書］

なし。

国際02

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
比較文明論		春学期集中	4 単位	片　倉　穣

[講義概要・学習目標]

この講義では、最近の歴史学・文化人類学などの研究成果や、比較文明論の方法論をとり入れ、世界史上に存在した、かつまた、現に存在している諸々の文明の性格と特徴を明らかにし、諸文明の交流・摩擦・衝突の諸相を具体的に考察する。アフリカや中南米などに存在した諸文明についても比較研究しつつ、その特質を解明したい。

本年度はとくに、歴史上、文明が交差するなかで翻弄された人々の生き様をとりあげ、また、文明人の日常生活にかかわる諸問題についても、比較文明論の立場から検討を進める。「文明は人間をほんとうに幸せにしたのか」。これも本年度の課題である。

日本は、比較文明論という学問にとって好都合な資料を提供してくれる場でもあるので、日本にかかわる資料を多用することになろう。

なお、研究の進展または資料・情報の入手状況により、講義計画の一部を変更することがある。

[講義計画]

はじめに：この講義の趣旨

1部：比較文明論の予備的考察
- （1）文明・文化に関する意識調査
- （2）アフリカから文明を考える

2部：諸文明の基礎的考察
- （1） 東洋と西洋
- （2） 世界の諸宗教

3部：文明の交流・摩擦のなかで生きた人々
- （1） 大葉子＝大陸に残された女性
- （2） 石女・阿古見＝狩猟民を見た女性
- （3） 金如鉄など＝強制連行された人々

4部：人生・日常生活の比較文明論
- （1）巡礼の比較文明論
- （2）葬儀・いけにえをめぐる問題
- （3）食物の比較文明論＝食タブー
- （4）ペットブームと文明社会
- （5）文明のなかのこども
- （6）文明と清潔＝浴場をめぐって
- （7）文明と病気・老い

5部：比較文明論の課題
- （1）人口増と文明社会の未来
- （2）その他

おわりに：まとめと反省

[成績評価の方法]

出席状況、期末試験あるいはレポートなどにより評価する。

[教科書]

毎時間、プリントを配布して講義を進める。

[参考文献]

川勝平太『日本文明と近代西洋』<NHKブックス>日本放送出版協会、1991
伊東俊太郎『比較文明学を学ぶ人のために』世界思想社、1997
比較文明学会編『比較文明』（年報） 1～18、1985～2002年
その他、随時授業中に紹介する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
比較文学		秋学期集中	4単位	赤瀬　雅子

[講義概要・学習目標]

近年、世界中の多くの大学に、比較文学の講座が設けられるようになった。講座の内容には二種類ある。ひとつはこの講座の中で文学一般について学ぶものであり、他のひとつはひとつの国の文学が他の国の文学に与えた影響を学ぶものである。

この講座の中では日本での文学研究には欠かせない、外国文学の影響の研究を学んで行きたい。これは比較文学発祥の地であるフランスの研究方法である。

一方、アメリカで盛んになった対比研究の方法も無視できない。主題から比較の本質に迫る方法等は捨てがたいものである。

基本の影響研究を追求しながら、自由な対比研究をも紹介してゆきたい。そしてこの学問が、文学研究の有力な一方法であることを学んでゆきたい。

[講義計画]

先ずわが国に比較文学が入ってきたいきさつや、その必然性について理解するようにして行きたい。

日本近代文学の研究には比較文学的研究方法が欠かせないものであることを、よく学ぶことが大切である。

ついで対比研究の面白さも分かるように、参考文献等を紹介しながら、人間の典型について説明してゆきたい。

講義が終わる頃には、影響研究を駆使して対比研究の領域に入る等のこともできるようになるであろう。

[成績評価の方法]

学期末の試験には全力を使ってよい答案を書いていただきたい。それは表面だけのよい答案ではなく、深い内容のある答案を期待し、要求する。

成績評価はこの答案を中心として行う。

[教科書]

富田仁・赤瀬雅子著『明治のフランス文学』駿河台出版社刊

[参考文献]

松村昌家他著『比較文学を学ぶ人のために』世界思想社刊

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
現代思想		春学期集中	4単位	岩　津　洋　二

［講義概要・学習目標］

私たちは人生の途上でさまざまな恐怖に遭遇する。爆弾テロを怖がり、地震を怖がり、お化けを怖がり、友達から嫌われるのが怖がる。すこしふりかえってみると、じつにさまざまな恐怖が私たちの生活につきまとっており、恐怖ゆえに、私たちはしたいことを思い止まり、したくないことをあえておこなっている。しかし、私たちの行動の決定にかくも深くかかわっている恐怖がどのようなものであるかについて正しく認識している人は少ない。

この講義は、哲学のみならず、心理学・生理学・民族学・民俗学などの視点から、恐怖を解明し、その作業をとおして、恐怖にとらわれている自分を見つめなおし、恐怖から自分を解放し、より自由になるための手がかりをさぐるという実践的な課題を追求する。恐怖とはなにかを明らかにすることによって、世界と自分自身を再発見する試みでもある。

［講義計画］

1．なぜ恐怖を問題とするのか
2．恐怖の諸相－恐怖の分類
3．近代社会における恐怖のとらえ方
4．恐怖の心理＝生理学
5．恐怖の過剰性
6．対人恐怖症と日本文化
7．恐怖としての和合
8．日本の伝統的恐怖対象
9．未開の恐怖と近代の恐怖
10．恐怖の利用
11．集合的恐怖
12．恐怖の愛好
13．恐怖への対処の仕方

［成績評価の方法］

講義への参加度・提出物・何回かのテスト

［教科書］

［参考文献］

授業中に指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
応用言語学		秋学期集中	4 単位	橋　内　武

［講義概要・学習目標］

応用言語学は、1940年代後半から50年代前半にかけて言語学の異言語教育への応用として成立したが、現在では学際的言語学として言語学と隣接科学の中間領域に位置づけられている。その他に、言語問題の学という立場や「ことばの職業」研究であるという立場もあり、一筋縄ではいかないのが、応用言語学である。本講では、これら4つの応用言語学についての基本事項を講ずることをもって応用言語学への誘いとする。履修者にことばの多面性に気付いてもらい、将来日本語教師や言語聴覚士などのことばの職業に就くために必要なことばに対する見方を養ってもらうことが、学習目標となる。

［講義計画］

1．応用言語学とは何か ― 課題と方法
2．言語問題の学 ― 言語障害、言語の消滅、ことばの乱れ、誤訳
3．異言語教育学 ― 教授法、教師・学習者、教材、辞書、評価
4．学際的言語学 ― 神経言語学、心理言語学、人類言語学、社会言語学、法言語学、経済言語学など
5．「ことばの職業」研究 ― 日本語教師、言語聴覚士、通訳 英語教員

［成績評価の方法］

期末試験による。

［教科書］

なし

［参考文献］

白畑知彦ほか著、『英語教育用語辞典』、大修館書店、1999.
ジョンソン・ジョンソン編（岡秀夫監訳）、『外国語教育学大辞典』大修館書店、1999.

国際02

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
民俗学		春学期集中	4 単位	橋　内　　武

[講義概要・学習目標]

庶民の伝承文化を観察・記述するのが民俗学である。本講では、まず民俗学とは何かという問いに答えたあと、さまざまな伝承文化について解説する究極的には伝承文化への興味と関心を抱いて、履修生諸君が自ら身近な民俗事象への考察を進めることができるようになることをその学習目標とする。

[講義計画]

1．民俗学とは何か ― 民俗学の課題と方法
2．人生儀礼 ― 誕生から葬送まで
3．年中儀礼 ― 盆と正月
4．俗信 ― 予兆・卜占・禁忌・呪術
5．昔話 ― タイプと研究方法

[成績評価の方法]

期末試験による。

[教科書]

稲田浩二・稲田和子編著、『日本昔話100選』、講談社.
新谷尚紀編著、『民俗学がわかる事典』、日本実業出版社.

[参考文献]

福田アジオ他編、『講座　日本の民俗学』、全11巻、雄山閣出版.
福田アジオ他編、『日本民俗大辞典』、全2巻、吉川弘文館.

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
アジア文化史		春学期集中	4単位	原山 煌

[講義概要・学習目標]

日本人の東アジア地域に対する認識はどのように形成されてきたのか。この問題は現代アジアの一員として一定の役割を期待されている私たちが、常にわきまえておくべきテーマであろう。明治時代の開始とともに、中国ならびにその周辺地域に出かけていった日本人は、その地で何を見、何を感じたのか。そのような経験の積み重ねが、やがて「支那」とか「満蒙」とか「満鮮」などという独特の政治用語を生み出し、「大東亜共栄圏」などという歪められた枠組みが普通のこととして論じられるようになるのである。斯様なことどもがもたらした負の遺産は、いまだに折にふれて日本人の眼前に突きつけられることがあるのは、周知のとおりである。この講義では、明治以来日本人が中国を中心とするアジアをどのように体験してきたのか、その経験の中から出てきたアジアに対する視線はどのように変貌してきたのかなどを、史料（資料）を紹介しながら考えてゆく。

[講義計画]

1．この授業の目的と講義の進め方の説明
2．日本人の前近代におけるアジア理解
3．中国とその周辺諸地域の近現代史概観
4．明治以降日本人旅行者の多様な記録を考える
5．拡大する蔑視観
6．「満蒙」という考え方
7．私たちの考えるべきこと

[成績評価の方法]

授業への理解度と出席状況を確認するため毎回小テストを行い、随時課すレポート（参考文献を3冊以上参照したオリジナルな論考）と、学期末の定期試験の成績によって総合的に評価する。

[教科書]

特に指定しない。

[参考文献]

トピックごとに配布資料を用意するほか、参考文献を随時紹介する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
西洋文化史		秋学期集中	4単位	岩　津　洋　二

［講義概要・学習目標］

今日のヨーロッパはEU（欧州連合）として統合されつつある。各国人意識を越えた「ヨーロッパ人」意識をもつ人々も増大しているが、他方では、それぞれの民族の文化的伝統の独自性をまもろうとする運動も高まりを見せている。この講義は、おおきく変貌しようとしているヨーロッパとヨーロッパの人々の現在を理解するための枠組みを提示することを目的とする。

したがって、建築や美術といった特定の文化的な領域の歴史をたどるような講義ではない。多くの日本人にとって憧れの的であったヨーロッパの、一般にはあまり注目されることのない側面に焦点を当てながら、その文化的特質について考察する。絵画・写真・グラフ・図表など多くの資料を利用する。

近代の日本人の西洋への無批判的な憧憬を解体し、西洋を冷静に見直すきっかけとなる講義にしたいと考えている。

［講義計画］

Ⅰ．西洋文化史の課題と射程
Ⅱ．西洋文化の伝統と近代
Ⅲ．西洋の統一性と多様性
Ⅳ　西洋の自己規定
（第１回目の講義で、より詳細な講義計画を示す）

［成績評価の方法］

抗議への参加度・提出物・何回かのテスト

［参考文献］

授業中に指示する。

［教科書］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
キリスト教史		秋学期集中	4単位	伊藤高章

［講義概要・学習目標］

キリスト教は、時代・地域によって異なった様相を呈する。本講義では、キリスト教の多様性を学ぶと共に、多様性の中に共通するキリスト教の本質を探ることを目的とする。

また、現代の諸問題とキリスト教がどのように関わっているのかを、医療や人権の問題を取り上げて紹介する。

［講義計画］

週１回を、教科書を通してイエス像の変遷をたどる講義とし、もう１回を、テーマ別のキリスト教理解に当てる。学生による研究報告を取り入れる。

［成績評価の方法］

ブック・レポート、映画鑑賞レポート　（合計３本）
研究発表およびレポート

［参考文献］

遠藤周作『イエスの生涯』新潮文庫
遠藤周作『キリストの誕生』新潮文庫

［教科書］

Ｊ・ペリカン『イエス像の二千年』講談社学術文庫　1250円

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
西洋思想史		春学期集中	4単位	山川　偉也

［講義概要・学習目標］

この講義は西洋思想の流れを、主として「時間」の観念に焦点を合わせながら概観してみようとするものです。「時間」は、私達にとって最も身近なものであると言ってよいでしょう。しかし、「時間」とはいったい何なのでしょうか？　ひとたび、この問いが立てられるや、一挙に「時間」は謎めいたものとなって立ち現れてまいります。そしてそれと同時に、つねに「時間」を意識して生きているわたしたち自身、わたしたちの「自我」とはいったい何者であろうかという問いが生じてまいります。実のところ、「時間」は、哲学思想の最も深遠な対象なのです。本講義は、「時間」への問いを通じて、西洋思想の骨格を浮き彫りにしようとします。その際、ギリシア思想が大きなポイントを占めることになるでしょう。

［講義計画］

講義は「時間とは何か」という問いによって始まります。その際、大森荘蔵という人（科学哲学者）の逆説的な時間論が紹介されますが、これについて一緒に考えていただくことになります。そして、「時間を意識する」とはどういうことかという論題がとりあげられます。この問題をめぐって２０世紀最大の哲学者だった二人の人物ハイデッガーとウイトゲンシュタインの「時間」についての考えが検討され、次第に西洋思想の森の奥深く分け入ってゆくことになります。

［成績評価の方法］

毎回の授業の最後に必ず小テストの時間を設け、学生諸君の理解の度合いを試すことにします。成績評価は、その毎回の小テストの評価と学期末の試験の評価を総合して行われることになります。

［参考文献］

［教科書］

山川偉也『古代ギリシアの思想』講談社学術文庫

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
西洋古典語（旧　ギリシア語） （ギリシア語）		秋学期集中	4単位	山　川　偉　也

［講義概要・学習目標］

西洋文化を奥行をもったものとして理解しようと思うならば、ギリシア文化を学んだほうがよろしい。そして、ギリシア文化を少しでも身についたものとするためには、ギリシア語を学んだほうがよろしい。言葉は文化の核心であり、そして西洋文化はギリシア文化を原流としているからである。

なるべく楽しい授業にしたいと考えている。

［講義計画］

ギリシア語学習は積み重ねが重要である。毎回たゆまず出席して練習を続けることがいちばん大事である。

そして、古典ギリシア語だけではなく、たまには現代ギリシア語も勉強することにしよう。

［成績評価の方法］

言語の学習は、演習という性格をもつ。授業中の訓練とその評価は直結する。したがって、練習問題を解いていく能力が試される。試験はその再確認という意味をもつだろう。

［参考文献］

［教科書］

田中美知太郎・松平千秋『ギリシア語入門』岩波書店

国際 02

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
西洋古典語　（旧　ラテン語） （ラテン語）		秋学期集中	4単位	ゴンザレス　ダリオ GonzalesDario

［講義概要・学習目標］

（学習目標）　ラテン語の基礎的な知識の習得を目指す。
（講義概要）　ヨーロッパの共通語的存在であったラテン語は、2千年余りの歳月により、今やフランス語、スペイン語、イタリア語、ポルトガル語、ルーマニア語、等に変身しているが、西洋文明や歴史文化の謎を解くための鍵になる言語である。又、英語の辞書を開けば、多くの語彙がラテン語から影響していることを知り、母なる言語の由縁が自然に理解できる。
　講義は、ラテン語の基礎的な文法の理解と、現代ヨーロッパの諸言語の共通点を知るためにラテン語の歴史概要についても触れる。又、ラテン語に出来るだけ親しんでもらう為に視聴覚教材を活用するつもりである。

［講義計画］

（前期）1・ラテン語の起源と歴史
　　2・発音と読み方
　　3・基礎的な文法事項

（後期）1・ラテン語からの派生語
　　スペイン語、フランス語、イタリア語、ポルトガル語 等 .
　　2・身近なラテン語
　　音楽と雑誌
　　3・簡単な日常会話

［成績評価の方法］

出席日数、レポートの総合評価とする。

［教科書］

プリント配布。

［参考文献］

松本悦治　（著）「ラテン語入門」（駿河台出版社）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会言語学（旧　言語文化特講（社会言語学））		通　期	4単位	大原　始子

［講義概要・学習目標］
　日常、「ことば」は人間にとって空気のような存在であるため、その変化や使用の様子に注意を向けずにいることが多い。社会的要因と深く関わりながら、「ことば」は様々に姿を変えて存在し、日々変化している。また、話し手は、文化や社会の慣習にそって、「場面」や「相手」にふさわしい「ことば」を使い分ける。このように、言語の変種を、誰が、どこで、何を、どのように話すかに注目し、分析していく研究が社会言語学である。
　本講義では、前期は、多様な言語社会の形態を知ることに重点を置き、学習していく。後期は、言語の多様性と語用論的研究を紹介しながら進めていく。専門的な内容に入るため、言語学、英語学の基礎知識があることが望ましい。社会学、文化人類学、社会心理学などと深く関わる学際的な学問領域なので、幅広い関心を持って、講義に取り組んでほしい。

［講義計画］
<前期>
言語と方言
国語、公用語、共通語、標準語
「日本における第二公用語化」
アメリカ、オーストラリア、アジア、アフリカの社会言語学的言語状況
バイリンガルとダイグロシア
ピジンとクレオール
言語とアイデンティティ
言語計画
<後期>
言語変種の地域差、世代差、男女差、階層差
日本語アクセントの平板化
ら抜き言葉
協調の原理
ポライトネス理論と敬意表現
借用語

［成績評価の方法］
前期、後期終了時に、論述試験を行う。講義中に出すレポートの成績も評価に加える。

［教科書］
未定

［参考文献］
その都度、プリントして配布、または指示する。

国際02